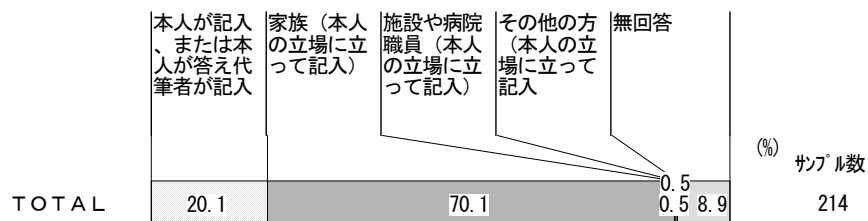


## 1 基本的な属性等

### (1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「家族(本人の立場に立って記入)が約7割(70.1%)。

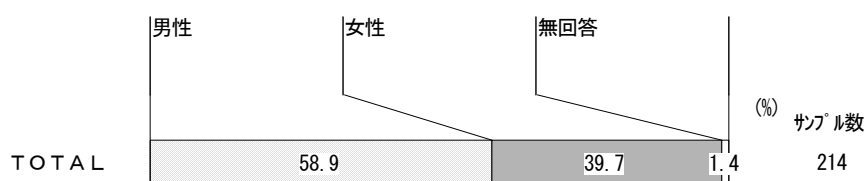


### (2) 性別・年齢

問2 あなたの性別をこたえてください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を書いてください。

性別は、男性が58.9%、女性が39.7%。



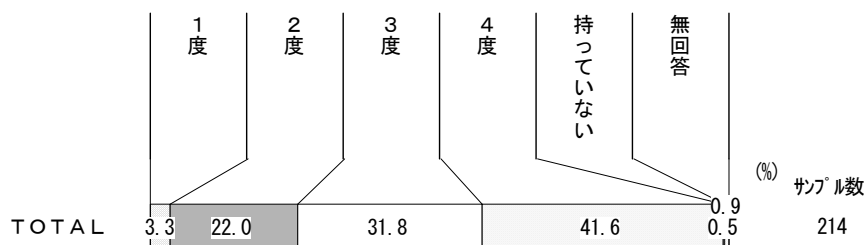
年齢は、10代が24.8%、20代が18.7%で、平均年齢は29.6歳。

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	平均
n=214	11.2%	24.8%	18.7%	14.0%	15.9%	4.2%	4.2%	4.2%	2.8%	29.6歳

### (3) 愛の手帳に書かれている障害の程度

問4 「愛の手帳(療育手帳)」に書かれている障害の程度をこたえてください。(○は1つ)

愛の手帳(療育手帳)に書かれている障害の程度は、「1度」3.3%、「2度」22.0%、「3度」31.8%、「4度」41.6%の構成。



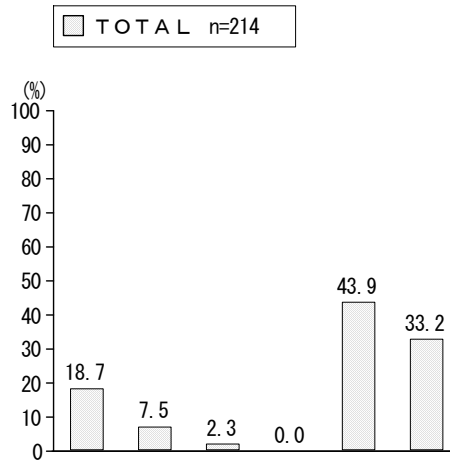
【知的障害者】

(4) 他の障害の状況

問5 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

知的障害以外の障害との重複状況をみると、「身体障害者手帳を持っている」人が18.7%、「発達障害と診断されたことがある」人が43.9%いる。

愛の手帳に記載された障害程度別にみると、「2度(重度)」の人では、21.3%が「身体障害者手帳を持っている」、57.4%が「発達障害と診断されたことがある」と回答している。



問4 療育手帳に記載された障害程度		n	1	2	3	4	5	6
			身体障害者手帳を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	無回答・いずれもあてはまら
0	TOTAL	214	18.7	7.5	2.3	0.0	43.9	33.2
1	1度	7	85.7	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
2	2度	47	21.3	8.5	2.1	0.0	57.4	19.1
3	3度	68	19.1	7.4	1.5	0.0	32.4	41.2
4	4度	89	11.2	7.9	2.2	0.0	47.2	37.1
5	持っていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

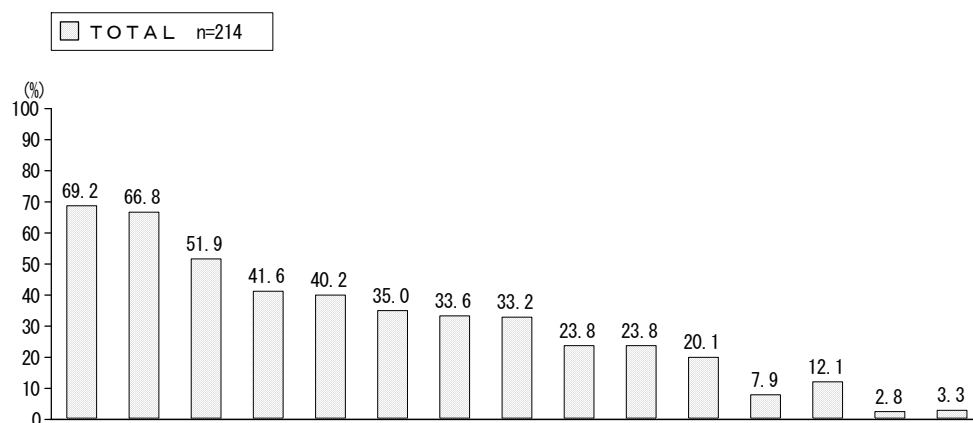
## 2 介助・援助の状況

### (1) 介助・援助を受けている場面

問6 どのようなときに手助けをしてもらっていますか。(〇はいくつでも)

実際に手助けを受けている場面としては、「暮らしに必要な事務手続き」をあげる人が69.2%と最も多く、次いで「生活費などのお金の管理」が66.8%で続いている。

障害の程度別みると、「外出するとき」に手助けを受けている人の割合は、「1度」では100%、「2度」では85.1%、「3度」では58.8%、「4度」では24.7%となっている。



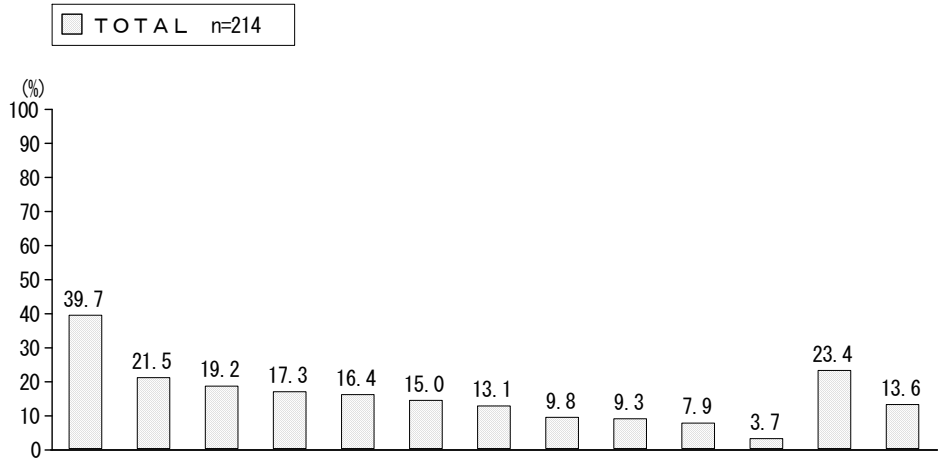
問4 療育手帳に記載された障害程度	n	12	11	8	3	13	10	9	4	2	6	5	7	1	14	15
		暮らしに必要な事務手続き	生活費などお金の管理	外出するとき	家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	相手の話を伝えたいときや自分の話を聞きたいとき	服薬するとき	送り迎えのとき、学校や職場、作業所などへの送迎のとき	お風呂に入ったり、身体を洗うとき	食事をするとき	トイレのとき	着替えをするとき	家の中の移動をするとき	介助・援助を受けていない	その他	無回答
0 TOTAL	214	69.2	66.8	51.9	41.6	40.2	35.0	33.6	33.2	23.8	23.8	20.1	7.9	12.1	2.8	3.3
1 1度	7	100.0	71.4	100.0	71.4	57.1	71.4	85.7	100.0	85.7	100.0	85.7	71.4	0.0	28.6	0.0
2 2度	47	78.7	83.0	85.1	53.2	57.4	59.6	68.1	61.7	51.1	46.8	36.2	12.8	4.3	4.3	2.1
3 3度	68	82.4	82.4	58.8	51.5	47.1	36.8	32.4	30.9	19.1	22.1	17.6	2.9	1.5	1.5	4.4
4 4度	89	52.8	46.1	25.8	24.7	24.7	18.0	12.4	14.6	7.9	6.7	7.9	4.5	24.7	1.1	3.4
5 持っていない	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問7 出かけるときに困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「他人との会話が難しい」ことをあげる人が 39.7%と最も多く、次いで「他人の視線が気になる」(21.5%)、「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」(19.2%)と続いている。



問3 年齢 (3区分)	n	2	3	9	4	1	5	6	7	8	10	11	12	13
		他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	足りる人の手助け・配慮が	付き添ってくれる人がいない	歩道が狭く、道路に段差が多	道物が多く、歩きにくい	建物などに階段が多く、歩き	車を駐車するところがない	看板などに工夫が足りない	その他	特に困っていることはない	無回答
0 TOTAL	214	39.7	21.5	19.2	17.3	16.4	15.0	13.1	9.8	9.3	7.9	3.7	23.4	13.6
1 18歳未満	63	38.1	23.8	15.9	17.5	22.2	23.8	15.9	9.5	11.1	11.1	3.2	22.2	17.5
2 18～64歳	134	43.3	20.9	20.1	17.9	14.9	11.2	10.4	9.7	8.2	6.7	3.7	24.6	11.2
3 65歳以上	11	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	9.1	9.1	27.3	18.2
4 無回答	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7

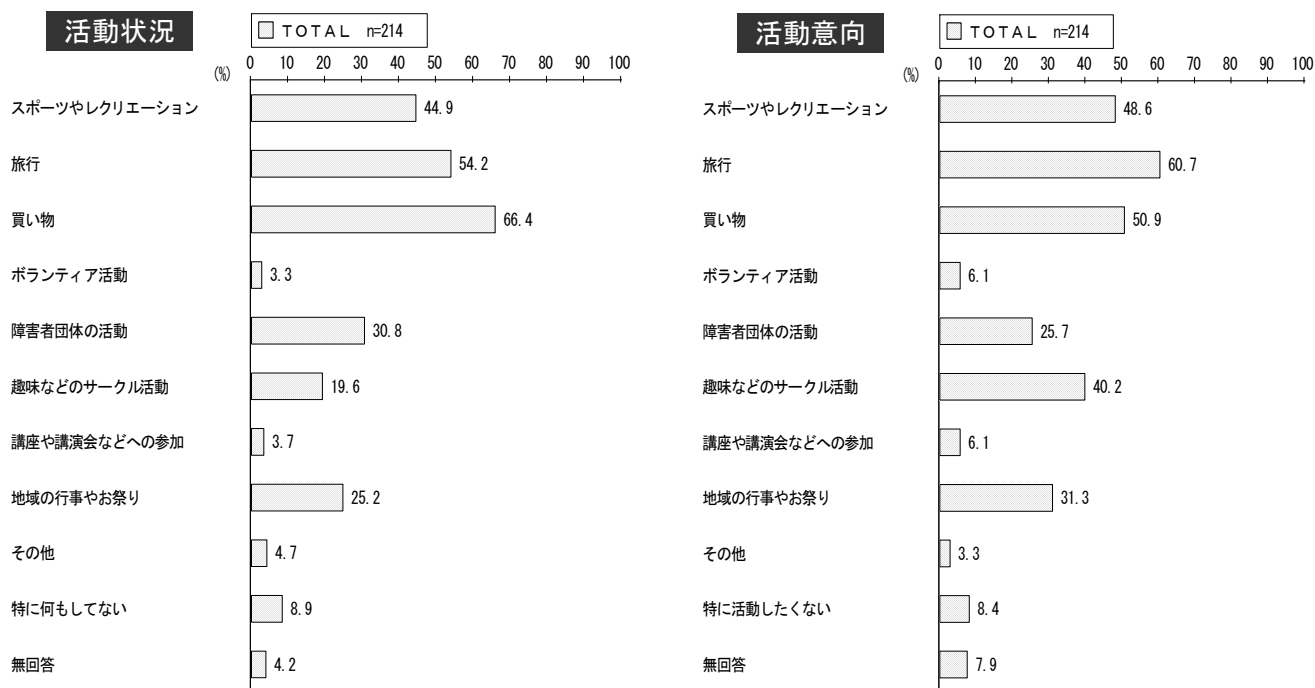
## (2) 余暇活動の状況・意向

問8 この1年くらいの中に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問9 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、60.7%の人が活動したいと回答している。

活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「趣味などのサークル」(実際 19.6%→意向 40.2%)である。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

活動状況を見ると、いずれも13年度に比べて活動している人の割合は上昇している。中でも、「スポーツやレクリエーション」は13.0ポイント、「旅行」は20.0ポイント、「買い物」は18.1ポイントと上昇幅が大きい。

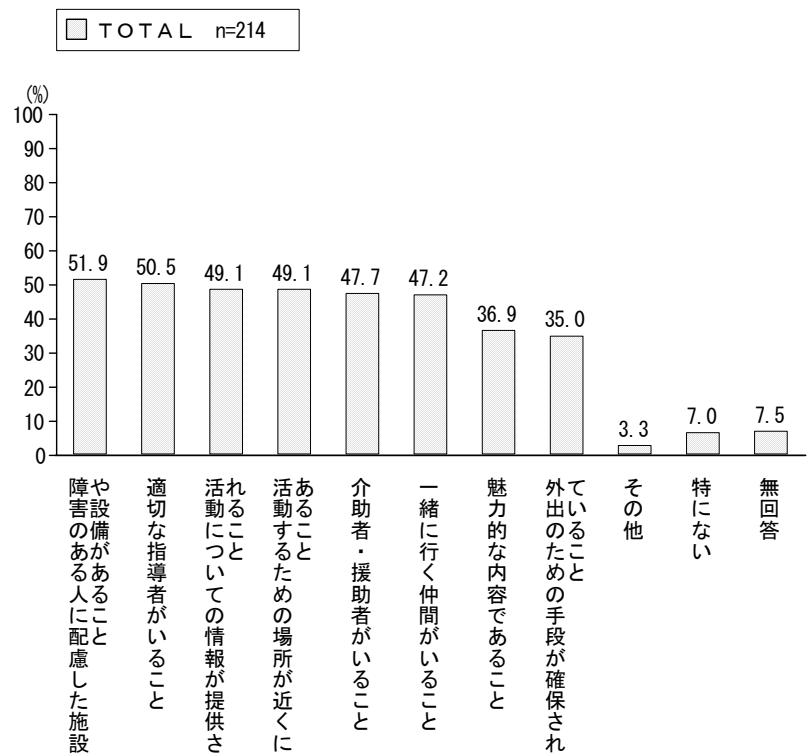
[活動状況]	スポーツ、レクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り
13年度 n=354	31.9%	34.2%	48.3%	2.0%	25.1%	14.1%	1.1%	22.3%

## 【知的障害者】

### (3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問 10 問9のような活動をするためには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「障害のある人に配慮した施設や設備があること」をあげる人が51.9%と最も多く、次いで「適切な指導者がいること」(50.5%)、「活動についての情報が提供されること」(49.1%)、「活動するための場所が近くにあること」(49.1%)と続いている。

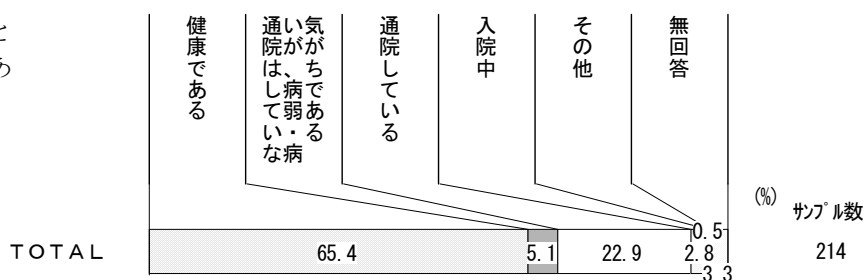


## 4 健康状態や医療について

### (1) 最近の健康状態

問 11 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

最近の健康状態をたずねたところ、65.4%の人は「健康である」と回答している。



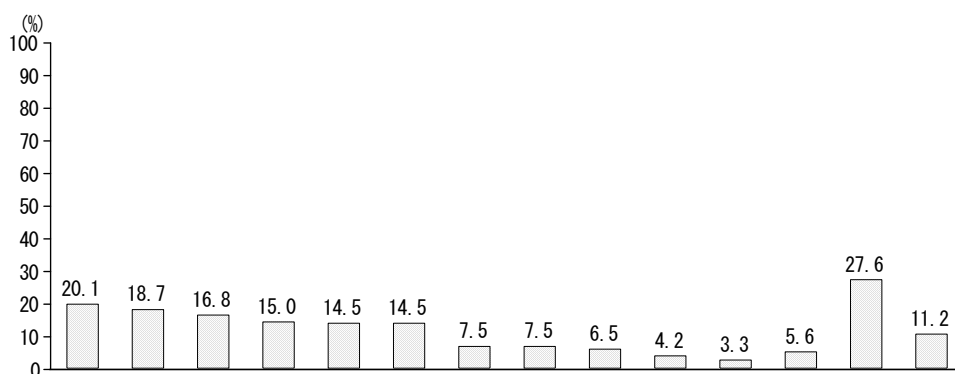
### (2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」なことをあげる人が 20.1%と最も多く、次いで「障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」(18.7%)、「近所に診てくれる医師がいない」(16.8%)と続いている。

愛の手帳に記載された障害の程度別にみると、「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」と回答した人の割合は、最重度・重度(1度・2度)では15%程度だが、中度・軽度(3度・4度)では2割を超えており、程度が軽いほうがより「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」と感じていることがわかる。

□ TOTAL n=214



問4 療育手帳に記載された障害程度	n	困りごと													
		11 医療スタッフが不十分な障害に対する理解が不十分	7 症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	1 近所に診てくれる医師がいない	8 受診手続など、障害のある人への配慮が不十分	2 専門的な治療を行う医療機関がない	10 医療費の負担が大きい	3 通院や健康診断のときに付き添いがいない	9 建物や障害のある人に配慮した構造になっていない	5 歯科診療を受けられない	4 往診を頼める医師がいない	6 定期的に健康診断を受けられない	12 その他	13 特にはない困ったり不便に思うこと	14 無回答
0 TOTAL	214	20.1	18.7	16.8	15.0	14.5	14.5	7.5	7.5	6.5	4.2	3.3	5.6	27.6	11.2
1 1度	7	14.3	28.6	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
2 2度	47	14.9	25.5	25.5	17.0	21.3	10.6	12.8	10.6	8.5	8.5	4.3	4.3	23.4	6.4
3 3度	68	23.5	16.2	13.2	11.8	14.7	17.6	5.9	8.8	7.4	2.9	2.9	5.9	25.0	8.8
4 4度	89	20.2	15.7	12.4	15.7	11.2	15.7	6.7	4.5	4.5	2.2	2.2	5.6	32.6	15.7
5 持っていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
6 無回答	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 5 日中の過ごし方

### (1) 日中の過ごし方

問 13 あなたは、平日の昼間、だいたいどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、18～64歳では、41.8%が「福祉施設で過ごしている、福祉のサービスに通っている」、38.8%が「働いている」と回答している。

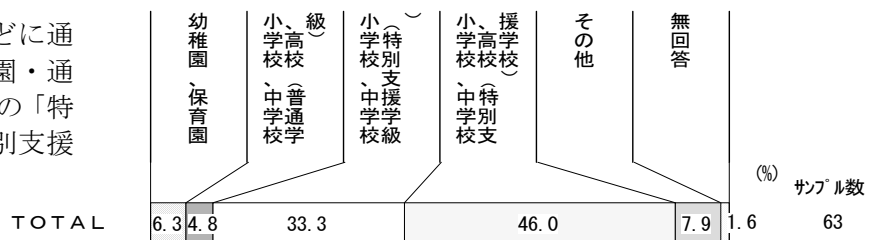
	n	幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設で過ごしている、福祉のサービスに通っている	働いている	病院で過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL	214	29.4%	30.4%	26.2%	2.8%	7.0%	1.4%	2.8%
18歳未満	63	95.2%	1.6%	-	1.6%	1.6%	-	-
18～64歳	134	1.5%	41.8%	38.8%	3.0%	9.0%	1.5%	4.5%
65歳以上	11	-	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	-
無回答	6	16.7%	50.0%	33.3%	-	-	-	-

## 6 幼稚園・保育園、学校等について

### (1) 通園・通学先

問 14 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

「幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した人の通園・通学先は、小学校・中学校・高校の「特別支援学校」が46.0%、「特別支援学級」が33.3%となっている。

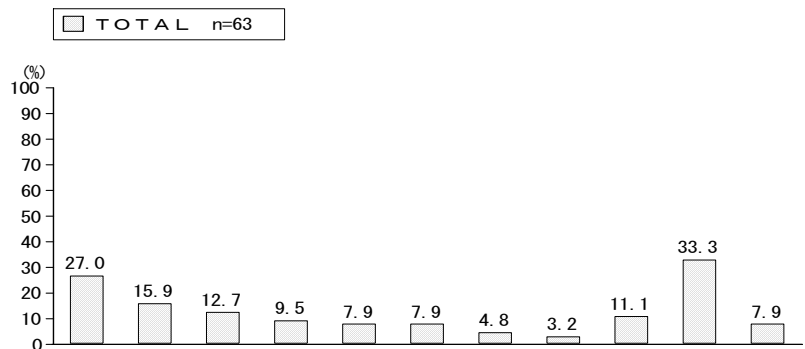


### (2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること

問 15 幼稚園や学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

幼稚園や学校などに通っていて困っていることとしては、「通うのがたいへん」と最も多い。

通園・通学先別にみると、「特別支援学級」に通っている人では、21人中9人(42.9%)が「通うのがたいへん」と回答している。



問 14 通園・通学している幼稚園や保育園、学校について	n	問 15 幼稚園や学校などに通っていて困っていること (%)										
		1 通うのがたいへん	3 介助体制が十分でない	6 友だちができない	4 先生の理解や配慮が足りない	2 トイレなどの施設が整っていない	5 まわりの児童・生徒たちの理解が得られない	7 普通学級に入れてもらえない	8 医療的なケア(吸入・導尿等)が受けられない	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	63	27.0	15.9	12.7	9.5	7.9	7.9	4.8	3.2	11.1	33.3	7.9
1 幼稚園、保育園	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
2 小学校、中学校、高校(普通学級)	3	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
3 小学校、中学校(特別支援学級)	21	42.9	19.0	9.5	0.0	9.5	14.3	4.8	4.8	14.3	23.8	4.8
4 小学校、中学校、高校(特別支援学校)	29	24.1	17.2	13.8	10.3	6.9	6.9	0.0	3.4	10.3	37.9	6.9
6 その他	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

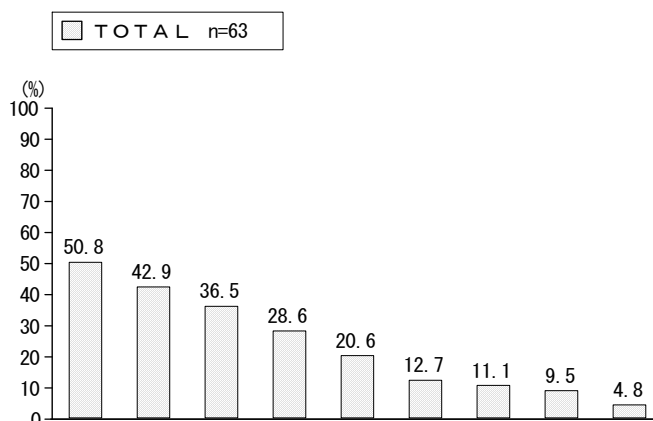


(3) 学校教育に望むこと

問 16 学校などに望むことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、「能力や障害の状況に合った指導をしてほしい」が 50.8% と最も多く、次いで「就学相談や進路相談など、相談体制の充実させてほしい」が 42.9% で続いている。

通園・通学先別にみると、「特別支援学級」に通っている人では、21 人中 5 人 (23.8%) は「障害の状況にかかわらず普通学級で受け入れてほしい」と回答している。



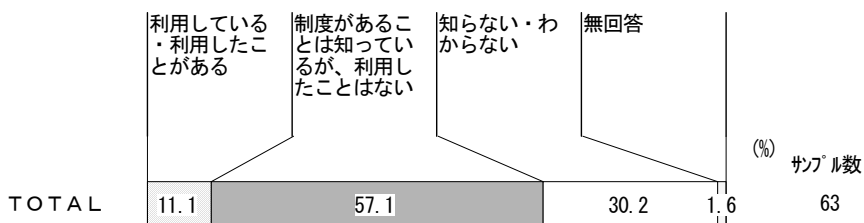
問 14 通園、通学している幼稚園や保育園、学校について	n	2	1	4	5	3	6	7	8	9
		能力や障害の状況に合った指導をしてほしい	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	個別指導を充実してほしい	普通学級との交流の機会を増やしてほしい	施設、設備、教材を充実してほしい	学級で受け入れられてほしい	その他	特に望むことはない	無回答
0 TOTAL	63	50.8	42.9	36.5	28.6	20.6	12.7	11.1	9.5	4.8
1 幼稚園 保育園	4	75.0	0.0	25.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
2 小学校 中学校 高校 (普通学級)	3	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
3 小学校 中学校 (特別支援学級)	21	52.4	61.9	42.9	33.3	28.6	23.8	23.8	0.0	0.0
4 小学校 中学校 高校 (特別支援学校)	29	55.2	37.9	41.4	27.6	17.2	3.4	6.9	10.3	6.9
6 その他	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(4) 介助員制度の認知状況

問 17 市では、通常の学級にいる障害のある児童に関して、学校生活の安定や保護者による介助負担の軽減を図るため、介助員を配置する制度を実施していますが、そのような制度があることを知っていますか。(〇は1つ)

問 18 介助員制度へのご意見などがあれば、自由にお書きください。

介助員の制度を「利用している・利用したことがある」人は 11.1%、「制度はあることは知っているが、利用したことはない」人は 57.1% で、約 7 割の人には認知されている。



介助員制度についての意見等としては、以下のような記入があった。

- ・ 中学校特別支援学級に介助員を配置して欲しい。(男性・13 歳)
- ・ 介助員制度を普段の授業、校外の行事で利用した生徒をあまり見たことがない。人数が多くなって先生の手が足りるのか不安。(男性・14 歳)
- ・ お願いしても実際来てもらえない。(男性・15 歳)
- ・ なかなか個人個人の理解が難しいようで合っていない (男性・16 歳)
- ・ 普通の子でも、手のかかる人が居て、介助の方が、いつも大変そうだった。(女性・16 歳)
- ・ 介助員がどのような方かよくわかりませんが、障害児の指導 (対応) に慣れている方にやっていただけると良いと思います。(女性・35 歳)

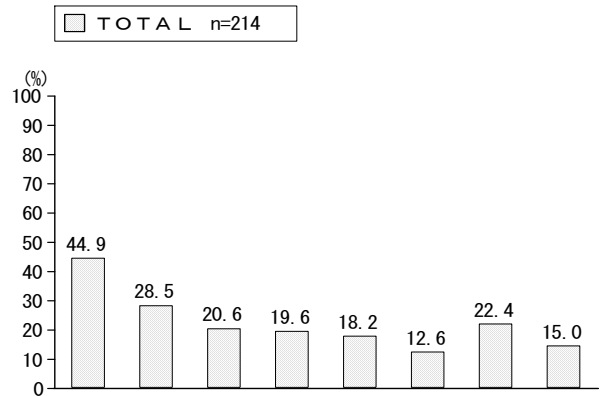
7 雇用・就労について

(1) 就労に関するサービスの認知状況

問 19 働くことに関する次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」(44.9%)。

年齢別にみると、18～64歳では「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」を知っている人は56.0%、「就労移行支援事業所による就労支援」を知っている人は33.6%となっている。

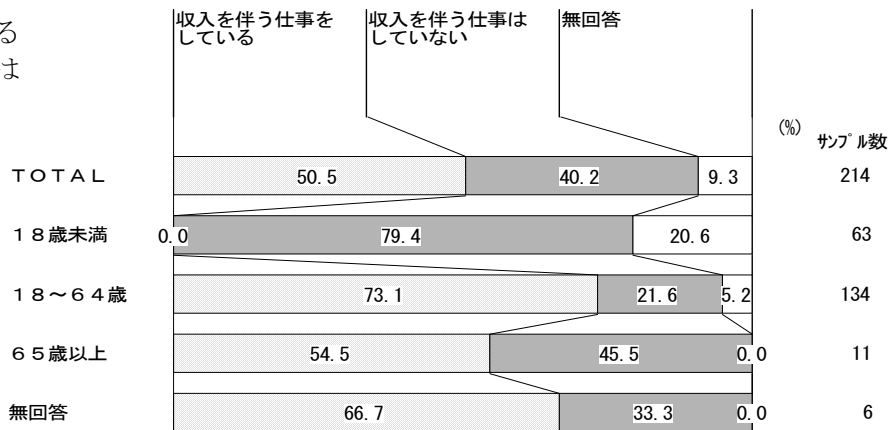


問3 年齢 (3区分)	n	1	6	4	2	3	5	7	8
		西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援	就労移行支援事業所による就労支援	田所による求人閲覧サービス出張	東京障害者職業センターによる就労支援	ジヨロコーナ制度	ハト障害者求人閲覧サービス	上記の中に、知っているもの	無回答
0 TOTAL	214	44.9	28.5	20.6	19.6	18.2	12.6	22.4	15.0
1 18歳未満	63	20.6	17.5	11.1	22.2	15.9	7.9	33.3	20.6
2 18～64歳	134	56.0	33.6	26.9	18.7	20.9	14.9	17.2	13.4
3 65歳以上	11	36.4	18.2	9.1	27.3	0.0	9.1	36.4	9.1
4 無回答	6	66.7	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0

(2) 就労状況

問 20 現在、あなたはお金をもらう仕事をしていますか。(○は1つ)

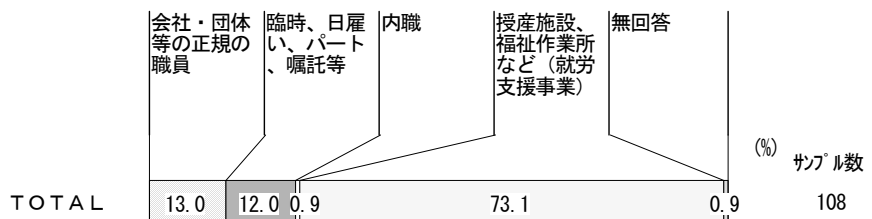
収入を伴う仕事をしている人の割合は、18～64歳では73.1%である。



(3) 就労形態

問 21 どのようなお仕事をしていますか。(○は1つ)

就労形態は、「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」が73.1%を占める。



(4) 給与・賃金額

問 22 あなたご自身の1ヶ月あたりの平均的なお給料はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は、平均 40,420 円である。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」では、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は 13,749 円となっている。なお、「会社・団体等の正規の職員」は 14 人の平均が 121,923 円、「臨時、日雇い、パート、嘱託等」は 13 人の平均が 118,500 円となっている。

【全体】

TOTAL	~30,000 円	30,001~40,000 円	40,001~50,000 円	50,001~80,000 円	80,001~90,000 円	90,001~100,000 円
108	57.4%	4.6%	1.9%	1.9%	2.8%	5.6%
	100,001~110,000 円	110,001~120,000 円	120,001~160,000 円	200,000 円以上	無回答	平均
	3.7%	1.9%	2.8%	2.8%	14.8%	40,420 円

【会社・団体等の正規の職員】【臨時、日雇い、パート、嘱託等】

	人数	50,001~80,000 円	80,001~90,000 円	90,001~100,000 円	100,001~110,000 円	110,001~120,000 円	120,001~160,000 円	200,000 円以上	無回答	平均
会社・団体等の正規の職員	14	7.1%	21.4%	14.3%	21.4%	7.1%	7.1%	14.3%	7.1%	121,923 円
臨時、日雇い、パート、嘱託等	13	7.7%	-	30.8%	7.7%	7.7%	15.4%	7.7%	23.1%	118,500 円

【授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)】

	人数	~1,000 円	1,001~3,000 円	3,001~5,000 円	5,001~7,000 円	7,001~10,000 円	10,001~15,000 円	15,001~30,000 円	30,001~100,000 円	無回答	平均
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	79	6.3%	7.6%	8.9%	7.6%	19.0%	13.9%	15.2%	8.9%	12.7%	13,749 円

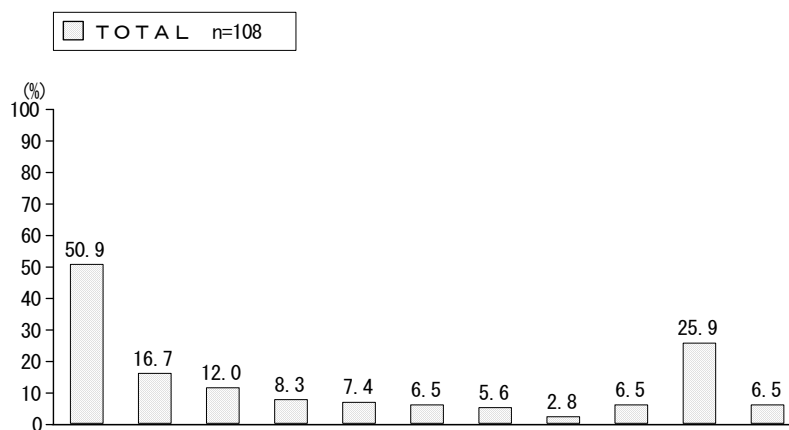
※ 「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」では、10 万円以下の回答のみ

(5) 仕事をする上で困っていること

問 23 仕事をする上で困っていることはなんですか。(○はいくつでも)

困っていることとしては、「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげる人が 50.9%と最も多い。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」の場合は、約 6 割が「給与・工賃などの収入が少ない」（59.5%）ことをあげている。



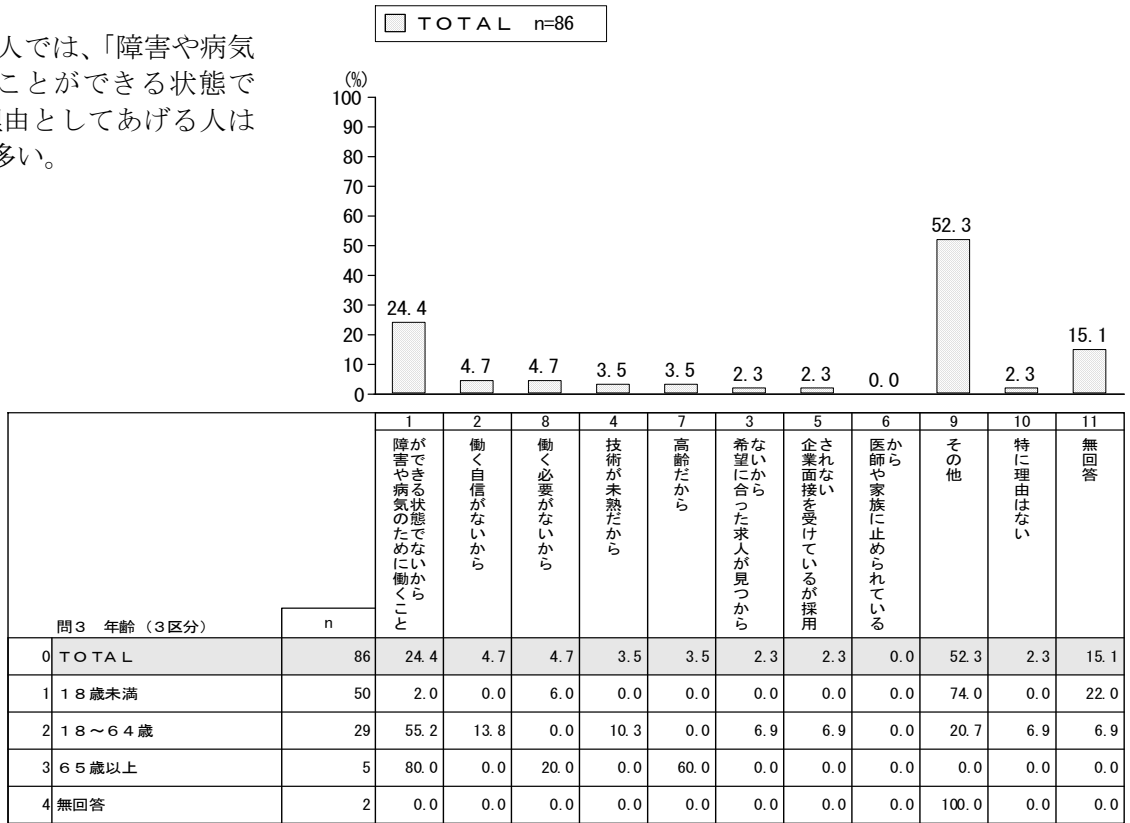
問 21 仕事形態	n	困っていること (割合 %)										
		1 給与・工賃などの収入が少ない	3 通勤が大変	5 職場の人間関係	8 職場外で相談相手がいない	2 勤務時間、日数が多く体力的に不安	7 障害に対する職場の理解不足	6 職場の設備が障害に対応していません	4 業務内容が合わない	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	108	50.9	16.7	12.0	8.3	7.4	6.5	5.6	2.8	6.5	25.9	6.5
2 会社・団体等の正規の職員	14	14.3	21.4	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0
3 臨時、日雇い、パート、嘱託等	13	30.8	0.0	30.8	7.7	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	53.8	0.0
4 内職	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	79	59.5	19.0	10.1	10.1	5.1	6.3	7.6	3.8	8.9	16.5	8.9
7 無回答	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【知的障害者】

(6) 働いていない理由

問 24 働いていない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

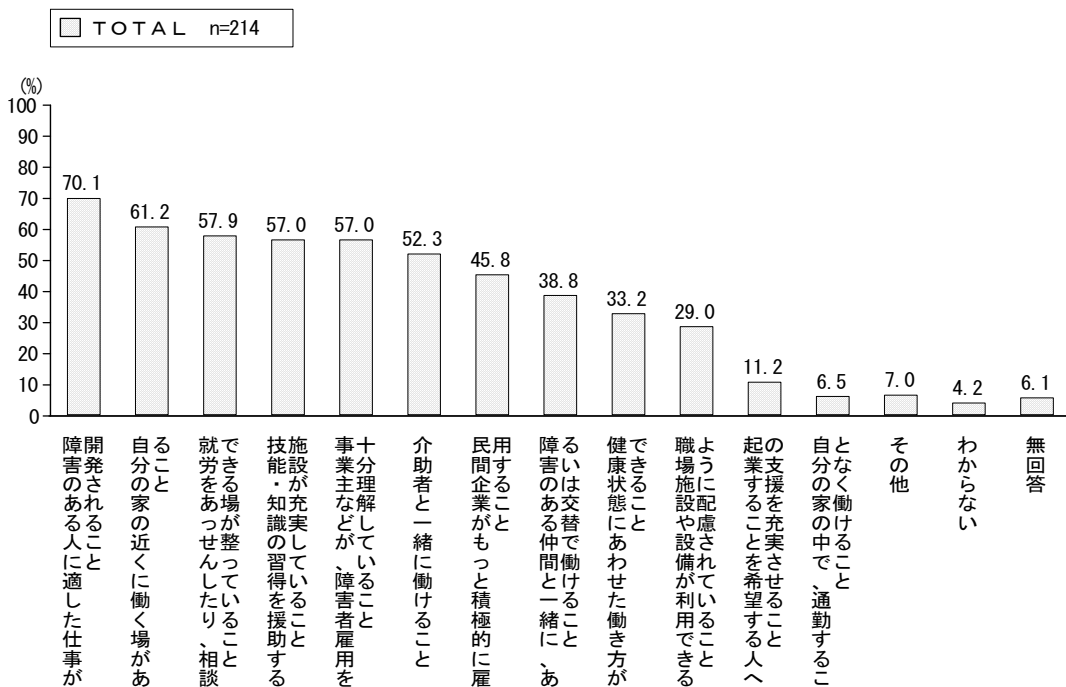
18～64歳の人では、「障害や病気のために働くことができる状態ではないから」を理由としてあげる人は55.2%と最も多い。



(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 25 障害のある人が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

障害のある人が働くために必要な環境等としては、「障害のある人に適した仕事が開発されること」をあげる人が70.1%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(61.2%)、「就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(57.9%)と続いている。

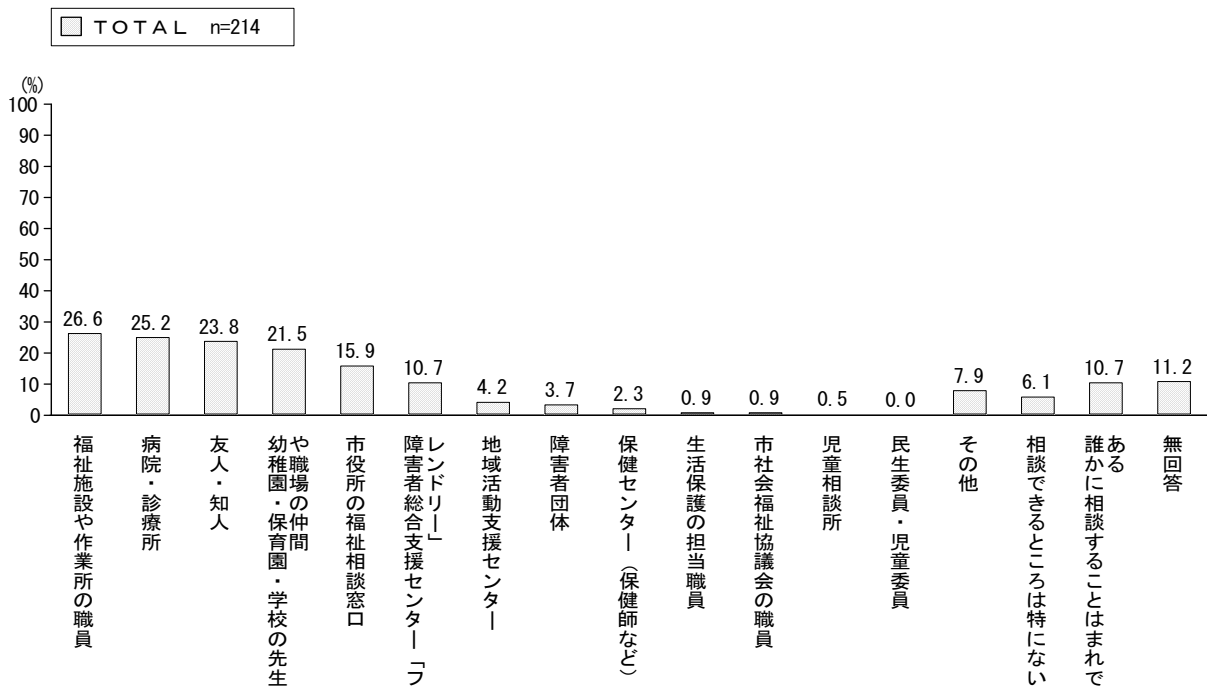


## 8 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 26 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。  
(〇はいくつでも)

家族や親せき以外の相談先としては、「福祉施設や作業所の職員」をあげる人が 26.6%と最も多く、次いで「病院・診療所」(25.2%)、「友人・知人」(23.8%)、「幼稚園・保育園・学校の先生や職場の仲間」(21.5%)と続いている。



### (2) 希望する相談先や相談体制

問 27 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 相談先

- ・ 市役所の福祉課に担当の方が決まっていると相談しやすい (女性・48歳)
- ・ 市の福祉相談窓口が一番必要かと思います。ただ相談の際、もう少し身近に感じられたらと思います。(女性・25歳)
- ・ 市役所の相談窓口、フレンドリー、作業所の職員。(男性・38歳)
- ・ 「友だち」と本人は言っていますが、困った時には、市役所の福祉課へ相談しに行くよう話しています。(男性・18歳)
- ・ 民生委員・児童委員や児童相談所に、病院との連携によるサポート。(女性・9歳)
- ・ 学校に通っているなので、学校側と、話し合いをして相談にのってもらえると良い。(男性・13歳)
- ・ 身近に接する可能性のある職員への教育に力を入れてほしい。その際には障害をもつ人の本当に望む対応を調べてから行ってほしい(思いこみでやらないで)(女性・2歳)
- ・ 本人の精神的な不安定なときなど、気軽に親が相談できる所があると安心します。(女性)

## 【知的障害者】

- ・ 小さな困りごとにも対応、応えてくれる場所・人であること（男性・11歳）
- ・ 障がい者のつたないながらも懸命な表現を汲み取って、真意を探ってくれる専門性の高い相談員が色々な窓口にいることが必要（女性・8歳）
- ・ 地域活動支援センター、就労支援センター一歩（女性・40歳）
- ・ 専門的知識を持って公平に相談にのってくれる公的機関の人、かつ継続して様子をみてくれる人。
- ・ 上手に話ができないので、じっくり話を聞きだしてくれる力のある人材を望む。（女性・58歳）
- ・ 就労先に1人、相談に乗って下さる方がいるとよいと思います。ほとんど職場では、まだ障害者に対して理解のある所が少なく、本人はストレスを感じて、辞める形になりました。（女性・30歳）
- ・ ケアマネジャー（男性・69歳）

## ② 相談体制

- ・ 知的障害者は、自分が困っているかどうかさえ、表現できません。常にサポートできる人が観察し、解決に向けた糸口を探してあげなくてははいけません。窓口があればOKではない。（男性・7歳）
- ・ 働くこと（就労支援）、暮らしていくこと（生活支援）、生きること（医療サポート）が整っていて、連携がとれるようなネットワークになっていること。（女性・18歳）
- ・ 話を真剣にきいてくれいろいろいっしょに行ってくれること。（女性・48歳）
- ・ 通所施設や市の窓口で相談しやすい体制（男性・45歳）
- ・ 市の保育関係者。土、日も含めた対応ができる。（共働きの方のため）（男性・3歳）
- ・ 支援センターの方々や学校や施設の方々などが共に色々な情報を公開し交流し合い、もっと深い情報を持ち合えることが、障害者本人や、家族が1つ1つ情報を得なければならない負担を軽減することになると思います。（女性・10歳）
- ・ （本人が希望すれば）連携を取ってもらえることを希望します。同じ市の施設や市役所内でのたらい回しにならないように。（女性・10歳）
- ・ 作業所に通所しているので作業所内で専門的なことも含めて、きめ細かく相談できる体制が整うとよいと思う。（男性・36歳）
- ・ 生まれて間もないころは、保健師さんに話を聞いてもらったこともあったが、行く度に、産休や引越し等担当者が変わってしまうので、相談者としてたよりにならなかった。（男性・2歳）
- ・ プライバシーは、絶対に守ってもらえること、相談は福祉課にしたいです。（男性・39歳）
- ・ 地域の相談窓口。相談の焦点（問題）を一緒に解決へ誘導してくれる担当者。（女性・22歳）
- ・ 家族以外にも、その人の生活、様子、悩みが理解してくれる人が身近にいるか。身近にいて、その人を守ってくれる体制が必要です（男性・78歳）
- ・ 相談員が対応してくれるコールセンター（男性・16歳）
- ・ 障害が軽度なため、通院もしていないため、なかなか気軽に相談できる場所が少なく、（現在は「一歩」のみ）もっと気軽に話をできる場所がほしい（男性・19歳）
- ・ 市役所などに相談できればいいが、家族の苦境を理解しようとする気が乏しく、法令や制度をたてに「ここまでしかできません」という対応を何度も受けた。（男性・8歳）

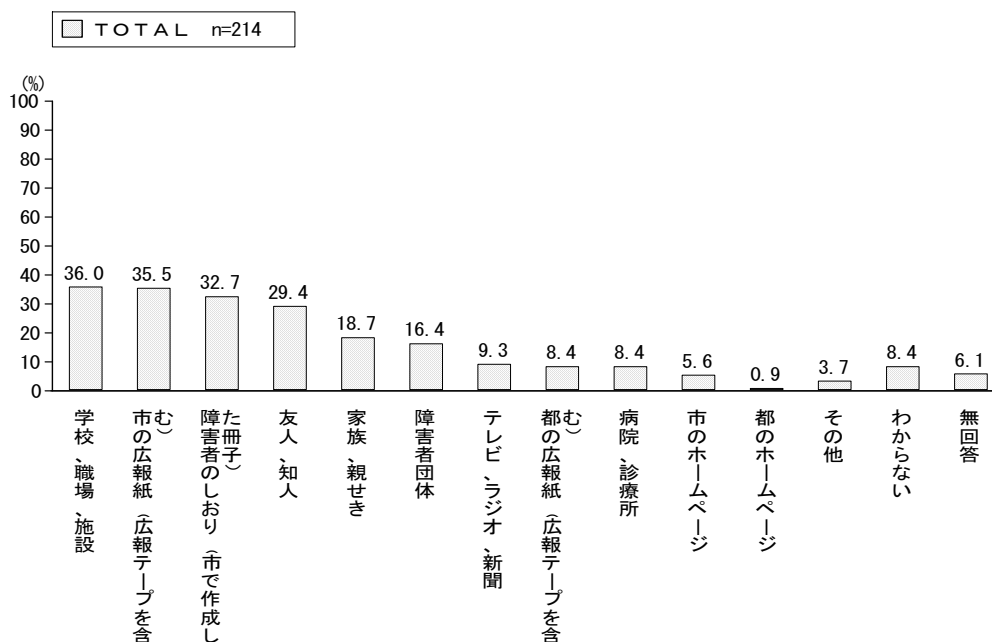
## ③ その他

- ・ 国の制度が整わない限り、障害者への理解はない。少数として切り捨てられるようなことばかり見せかけの体制はいらない（男性・21歳）
- ・ どこに相談したらいいかわからない。児童相談所に行ったら「うちの管轄でない」と言われ、フレンドリーに行けば一覧表をくれただけ。相談したところで助けてくれる訳でなく、最終的には親がやらなければならない。今の状況では相談する意味がない。誰もどこも助けてはくれない。（男性・8歳）

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 28 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「学校、職場、施設」をあげる人が 36.0%、「市の広報紙」35.5%、「障害者のしおり（市で作成した冊子）」32.7%、「友人、知人」29.4%となっている。

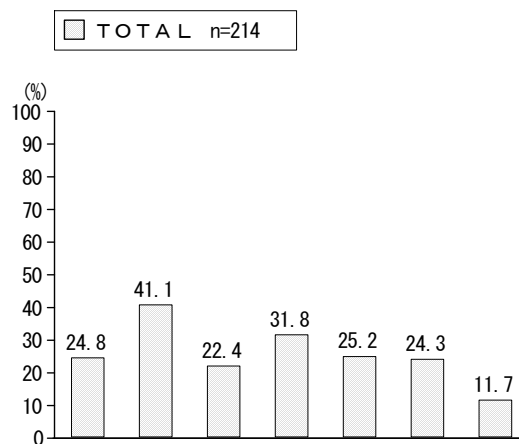


(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 29 西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」24.8%、「就労支援センター・一歩」41.1%、「地域活動支援センター・ハーモニー」22.4%、「生活介護事業所・くろーばー」31.8%となっている。

年齢別にみると、18～64歳では「就労支援センター・一歩」の認知度が52.2%と特に高い。



問3 年齢（3区分）	n	1	2	3	4	5	6	7
		相談支援センター・えぼっく	就労支援センター・一歩	地域活動支援センター・ハーモニー	生活介護事業所・くろーばー	1～4の施設はいずれも知らない	障害者総合支援センター「フレンドリー」を知らない	無回答
0 TOTAL	214	24.8	41.1	22.4	31.8	25.2	24.3	11.7
1 18歳未満	63	22.2	19.0	17.5	28.6	39.7	25.4	6.3
2 18～64歳	134	25.4	52.2	24.6	35.1	17.2	21.6	14.9
3 65歳以上	11	18.2	9.1	18.2	9.1	54.5	54.5	9.1
4 無回答	6	50.0	83.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0

## 9 福祉サービスについて

### (1) 福祉サービスの認知状況・利用経験

問 30 あなたは、次のような障害者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑧のサービスごとに1つずつお答えください。)

問 31 「利用している・利用したことがある」サービスについて、利用した際の感想などをお聞かせください。(上記の①～⑧の番号と、利用の感想などをお書きください。)

以下の8つのサービスのうち、利用経験率(利用している・利用したことがある)が最も高いサービスは、「移動支援(ヘルパーの派遣)」(33.6%)、次いで「短期入所(ショートステイ)」(22.0%)、「日中一時支援」(19.2%)。

	利用している・利用したことがある	サービスがあることは知っているが利用したことはない	知らない・わからない	無回答	(%)	サンプル数
ホームヘルプサービス	41.6	34.6	19.6	4.2		214
短期入所(ショートステイ)	43.0	20.1	15.0	22.0		214
補装具の支給・修理	29.4	38.3	20.6	11.7		214
日常生活用具の給付	27.1	45.3	20.6	7.0		214
移動支援(ヘルパーの派遣)	33.2	18.2	15.0	33.6		214
生活サポート	36.4	38.3	19.6	5.6		214
日中一時支援	34.6	29.9	16.4	19.2		214
地域活動支援センター	34.1	43.9	17.8	4.2		214

サービスを利用した際の感想を自由回答形式で求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① ホームヘルプサービス

- ・ ヘルパーの方とおしゃべりを楽しみながら、仲間と一緒に外出できて嬉しい。(男性・24歳)
- ・ かなり以前なので忘れましたが、とても助かった記憶があります。(女性・27歳)
- ・ 皆さん良くやってくれています。(女性・48歳)
- ・ 安心できる。(男性・69歳)
- ・ 自分が地域で生活し、活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができているが、支給時間が個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)
- ・ 非常に助かっている。家族で全て介護するのは本当に大変なので。(男性・9歳)

#### ② 短期入所(ショートステイ)

- ・ 短期入所後、入所中の様子を詳しくご連絡いただき、不安に感じることもなく、大いに楽しませて頂いています。(男性・17歳)
- ・ 一日だけ利用しました。皆で食事を作ったりして楽しかったようです。(男性・20歳)
- ・ 親から離れる練習をしているので、助かります。(女性・33歳)



- ・ 施設職員の不足があるのか。施設によって本人が帰宅時の様子が全く違う。親としては本人が慣れている施設にお願いしてしまう。(いろいろな施設を利用させたいのですが)。(男性・39歳)
- ・ 短期入所する際、家まで迎えに来てくれて、帰りに送り届けて下さるのでとても助かっています。本人もショートステイの時はとても喜んでます。(男性・42歳)
- ・ 上手く利用できていない。時間が短く、移動支援とセットにして使いたい。(男性・18歳)
- ・ ショートステイは何回か利用させていただきました。大変助かりました。ただ、なかなか混んでいて、取れない時もあります。もっと人数枠を広げていただくと、助かると思う。(女性・25歳)
- ・ 市内にショートステイができる病院が無いため、小平で利用しているが不便。(女性・9歳)
- ・ 利用できる日数はわりと支給されていますが、受け入れ側が満員なために、なかなか利用できない状態にあります。(男性・11歳)
- ・ 重い人と一緒だったので、うるさかった。(女性・48歳)
- ・ 将来のこと(グループホームに入る等)を考えて利用したが、へんなこだわりが現れてびっくりした。しかし本人にとっては、良い経験になったと思う。(男性・21歳)
- ・ 予約がなかなかとれない。利用したい日に利用できない。(男性・12歳)
- ・ 保護者の宿泊を伴う外出時に利用、安心して用を済ますことができた。(男性・38歳)
- ・ 良いショートステイ先が少ない。良い所は早々に予約が埋まっていて利用したい時に利用できない。絶対的に質・量ともに不足している。(男性・8歳)
- ・ 緊急時に対応していただき、良かった。(男性・45歳)
- ・ ショートステイ枠が少なく、いざという時に中々入れず、遠方をお願いした。(女性・71歳)
- ・ 母親の病気の時に利用。延長する時の手続きに困りました。(女性・27歳)
- ・ 思うように設定できない。近くにできる場所があるとよい。(男性・26歳)
- ・ 介護者が助かっていますがお断りされることも多い。日数が多い月はその都度、申請を行わなければならないので面倒です。(男性・9歳)

### ③ 補装具の支給・修理

- ・ 難聴になってしまったので、補聴器を5年に一回新しい物にして頂いています。前は電池もタダだったので助かりましたが、今は自払いです。(男性・41歳)
- ・ 最初の手続きは大変でしたが、サービスを受けられてとても助かっています。これからもお世話になりたいので、サービス廃止などにならないよう祈っています。(女性・16歳)
- ・ 必要な物なので、本当に助かります。(男性・19歳)
- ・ 靴底がすぐすり減ってしまうので、修理していただけるのがありがたいです。(女性・33歳)
- ・ 費用が助かっている。(女性・22歳)
- ・ 以前は判定が出るのに1ヶ月近くかかっていたが最近は早くなり良かった。ただ車いすなど1台しか支給がない物は、修理範囲をもっと広げてほしい。(女性・30歳)
- ・ 支給してもらえると回数が増えると良い。(男性・45歳)
- ・ 給付の決定を早くしてくれると助かります。生活に必要なものなので。(男性・9歳)

### ④ 日常生活用具の給付

- ・ 給付に対しては大変助かっている。有難いと思っています。申請から、給付まで大変時間がかかったことが少し残念でした。(女性・10歳)
- ・ おむつの支給券を頂いていますが、無料で配送してくれる業者の斡旋をして欲しい。(女性・35歳)

## 【知的障害者】

- ・ 費用が助かっている。(女性・22歳)
- ・ 家庭内での見守りに使用していますが、他に使い方があるのかよくわかりません。(男性・11歳)
- ・ リフトは、室内の移動にかかせない。助かっている。(男性・26歳)

### ⑤ 移動支援（ヘルパーの派遣）

- ・ 休日など余暇活動に、支援してくれる場に使い始めたところです。(女性・18歳)
- ・ ありがたい制度ですが時間数が少なく、利用しづらい。(女性・7歳)
- ・ いつも楽しく外出している。(女性・23歳)
- ・ ヘルパーさんと行く、色々な場所が楽しいようです。楽しみにしています。(男性・36歳)
- ・ 親が仕事をしていると、時間数が足りません。もっと増やして欲しい。(男性・11歳)
- ・ 一度外出先でケガをしたがヘルパーが気づかず、本人が後で痛いと言って発覚したことがある。(男性・12歳)
- ・ 余暇が充実してとても楽しかったが、1ヶ月の時間数がとても少ないので、なかなか出掛けられず残念である。(男性・18歳)
- ・ ありがたいが、支援者のレベルの違いを感じる。いつも利用できず、予約が必要なため、使いづらいと感じます。単なる登下校オンリーに使えない等の点もあります。(男性・18歳)
- ・ 男性のヘルパーの不足。(男性・16歳)
- ・ 利用者は男性なのに女性の介助が付く。(トイレは自分でできるが) (男性・19歳)
- ・ こちらの要望にすぐに対応して下さり、子どもとも話を合わせてくれる方を派遣してくれたので、安心して預けられました。又、子どももとても楽しく帰宅しました。(男性・13歳)
- ・ 親が仕事をしている為、習い事のお迎えをたのみました。体力的にもきつかったので、安心してまかせられる事ができ精神的にも助かりました。何度か利用した事があります。(女性・12歳)
- ・ 定期的に利用しています。とても助かっていますが、予約が取りにくいのが難点。(男性・8歳)
- ・ 親以外の人との関わりをもたせることができる。親の負担軽減。(男性・15歳)
- ・ サービス自体は助かっているが、とにかく時間が少なすぎる。(男性・8歳)
- ・ サービスの付与時間を必要に応じて増やしてほしい。(女性・17歳)
- ・ こちらの希望を受け入れて下さり、また先方からも楽しめるアイデアをいただき、とても楽しく利用させて頂いています。(男性・17歳)
- ・ こげら・ウーノで利用。色々なタイプのスケジュールで楽しく参加している。(女性・18歳)
- ・ ヘルパーさんによって安心できる方、そうでない方がいてすごく不安です。命を預かるという自覚を持っている方が少ないように思います。(男性・39歳)
- ・ 短時間でも通所・通学なども月単位で対応するなどして欲しい。(男性・18歳)
- ・ 土日祝の余暇に使用したいが、ヘルパーさんが足りず、断られるケースが多い。(男性・11歳)
- ・ 余暇活動に必要なものです。(男性・27歳)
- ・ 親の仕事の時に利用したが、とても助かった。(男性・21歳)
- ・ 頻繁ではないが、時折ヘルパーさんと一緒に行動してもらって助かっている。(女性・26歳)
- ・ 料金が予想以上にかかる。(交通費や諸経費など) (男性・12歳)
- ・ 「移動のみ」で使えず困っている人たちがいる。(女性・8歳)
- ・ 三人の障害児を抱えているにも関わらず、40時間/月のサービスしか受けられない。事実上学校の送り迎えはまかなうことができず、配偶者は働けない状態が長年にわたり続いている。(男性・8歳)

- ・ 自分が地域で生活し活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができていますが、支給時間に個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)

⑥ 生活サポート

- ・ こちらの事を良くわかって下さり、とても良くして頂いています。相談に乗っていただくこともあり、ありがたい存在です。(男性・13歳)
- ・ お料理を作ったり、家で過ごす時も助けてもらえてとてもありがたいが、これもとても時間数が少なく、利用回数も限られてしまう。(男性・18歳)
- ・ 自分が地域で生活し活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができていますが、支給時間に個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)

⑦ 日中一時支援

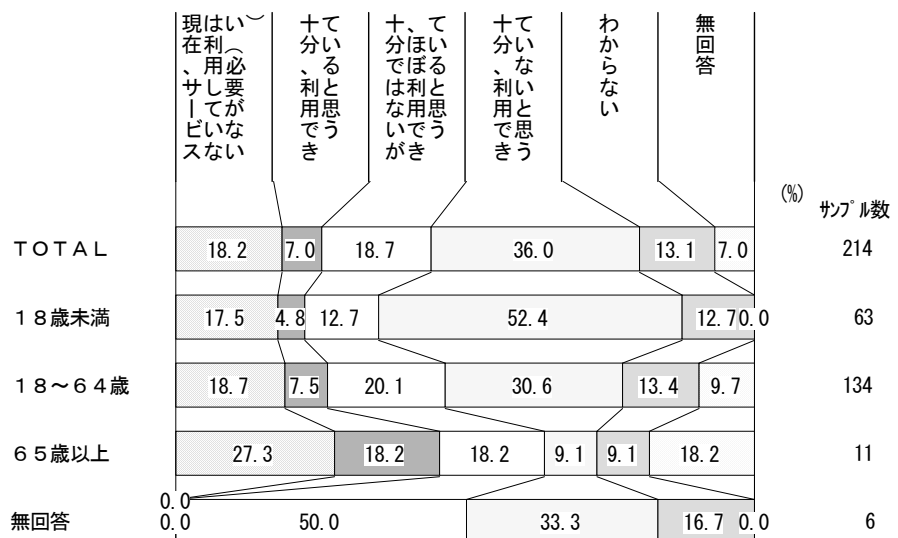
- ・ サービス費用自体は負担なく安い、「施設利用費」が高額。4時間程預けて4,000円くらいかかり、以来頼んでいません。(男性・11歳)
- ・ 値段が高くなるので、今は全く利用していない。(男性・16歳)
- ・ 楽しい。(女性・22歳)
- ・ 小学生時にお願いした事がありましたが、いずれも子どもがとても楽しそうに過ごせ、また新しいお友だちができたりと充実していました。(男性・13歳)
- ・ 月曜日にどうしても仕事に行かないとダメな時をお願いしました。まだ留守番をさせるのに自信がない時で大変に助かりました。(女性・12歳)
- ・ 助かっている。(男性・8歳)
- ・ 場所代がかかるので、気軽には利用できない。(女性・8歳)
- ・ 数年前に1度利用したことがあるが、ショートステイと同じで利用が難しい。固定した利用者が決まっている様で、新規の者はかなりきびしいと感じる。(女性・30歳)
- ・ 中途半端なシステム。(女性・27歳)
- ・ 日中に対応していただき、家族も安心できた。(男性・45歳)
- ・ 日中一時支援が市内にできることを望みます。遠くてなかなか利用できない。(男性・9歳)

(2) 必要なサービスの満足度

問 32 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

36.0%の人が、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答している。

年齢別にみると、特に18歳未満で、「十分、利用できていないと思う」人の割合が高い(52.4%)。



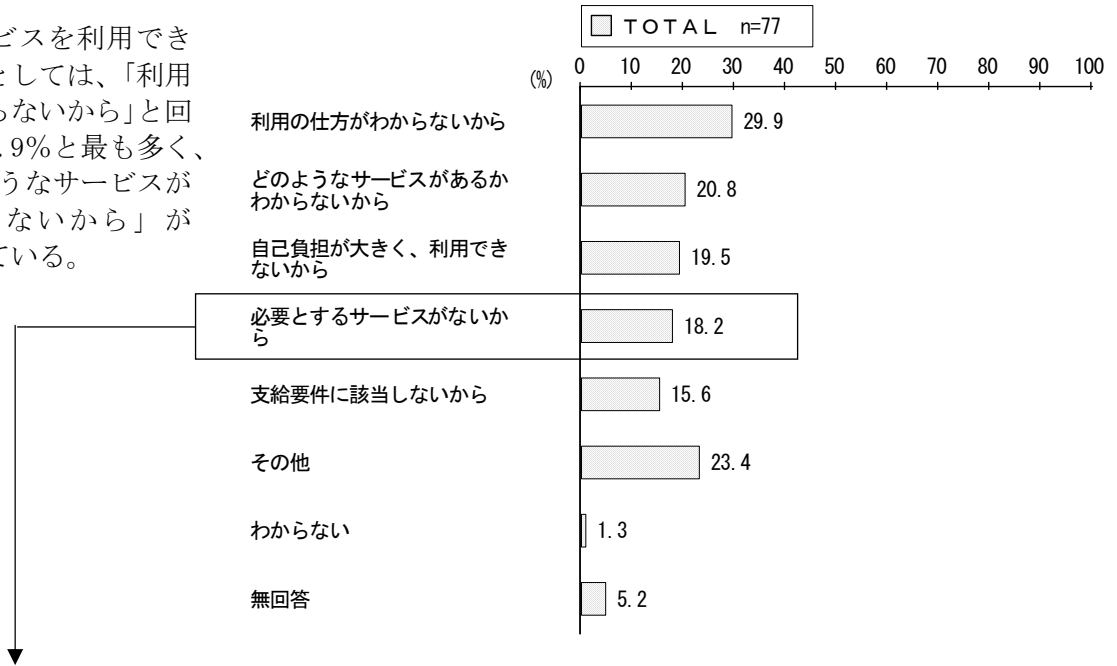
【知的障害者】

(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 33 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

問 34 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要なサービスを利用できていない理由としては、「利用の仕方がわからないから」と回答した人が 29.9%と最も多く、次いで「どのようなサービスがあるかわからないから」が 20.8%で続いている。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 移動支援は、車の送迎も含んだり、登下校も含めるものとすべき。(男性・3歳)
- ・ 障がいのある子どもを朝、駅で所定の電車に乗せ、学校まで見送る。放課後は学校から学童まで送る。短時間の移動見守りサービス。(男性・9歳)
- ・ 本人を介助している人へのケア (女性・16歳)
- ・ 習い事などの送り迎えなどにもヘルパーさん利用できるとよいと思います。(男性・8歳)
- ・ 作業所の送迎、体調気分の乱れ不安がある時、親がいないと一人では通えず。(女性・58歳)
- ・ 学校に放課後児童サービス事業者が迎えに来てくれるのが必要です。(男性・7歳)
- ・ ショートステイに関して、遠くの施設ではなく地域のグループホームやケアホームの中にあればよい。ショートステイしながら昼間はいつもの作業所などに通えるように。(男性・36歳)
- ・ 日中にあずけられる所がほしい。(男性・18歳)
- ・ スポーツや、趣味を楽しむ活動。あるかと思うが実際はすでに定員オーバーしており、新しい人を受け入れてくれない。(男性・18歳)
- ・ 障害者に合った、習い事(書道、卓球他)が少なく、気楽に行ける所がない(女性・30歳)
- ・ 放課後等デイサービスが近所がないので支給分利用できない(女性・8歳)
- ・ 障害者をしっかり介助できる介助員がいながら、集団で学べる環境のある場でのサービス。(女性・10歳)
- ・ 現在移動支援は、1対1のみの対応となっていますが、1対多のサービスがほしいです。息子の場合、友人数人と遊びたい(行動したい)と思っているのですが、金銭面の管理が全くできないので、たった一人で良いのですが、大人のヘルプが必要なのです。(男性・20歳)

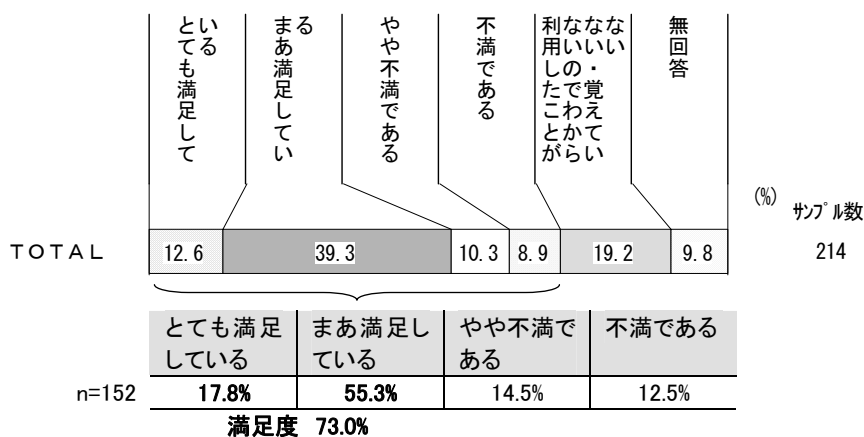
## (4) 障害福祉課窓口の満足度

問 35 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 36 問 35 のようにこたえたのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 12.6%、「まあ満足している」が 39.3%である。

「利用したことないのだからわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 73.0%が満足していることがわかる。



満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

## ① とても満足している・まあ満足している

- ・すでに利用している制度、その他の手続きなどはスムーズ。(男性・36歳)
- ・子どもの状況だけでなく、親がかかえる問題点なども良く聞いてくれて、前向きに検討していただいている。(男性・11歳)
- ・役所の方々は大変親切に相談に対応して下さいます。(男性・40歳)
- ・女性の職員さんの言葉遣いがとても丁寧に教えてくれたからです。(女性・43歳)
- ・親身になって考えてくれることが多い。(女性・27歳)
- ・詳細に教えてくれるので(不明点があっても)(女性・22歳)
- ・行くとすぐに対応してくれ、親切である。(男性・12歳)
- ・緊急時に対応していただき、とても安心できた。(男性・45歳)
- ・窓口にて対応してくれる人は皆さん親切で丁寧に話をしてくれます(女性・78歳)
- ・持参すべき書類を忘れたときも、相談、対応してもらえるため。(女性・46歳)
- ・子どもの様子を細かく尋ねてくれて、理解し把握しようという気持ちが伝わってきて、有り難かった。(男性・14歳)
- ・親切に相談に乗ってくれる。(男性・24歳)
- ・親切に調べて教えてくれた。(男性・69歳)
- ・大体の方は親切に対応して下さいますが、時々否定的な、まるで自分が助成しているかのような態度の方がいます。(男性・19歳)
- ・窓口が開放的でなく気軽に立ち寄れない感じがする。自分の家庭のことを知っている職員が不在の場合にいちいち説明をするのがめんどろ。(男性・11歳)
- ・職員さんの対応は優しく丁寧です。ただ交代したばかりで知識量が少なかったり、もっと勉強して欲しいです。(男性・7歳)
- ・混んでいるわけではないのに、待つ時がある(時々)(女性・18歳)
- ・事務的な手続き(時間を要さない)と相談(時間を要する)の窓口を分けて欲しい。(男性・17歳)

## 【知的障害者】

### ② やや不満である・不満である

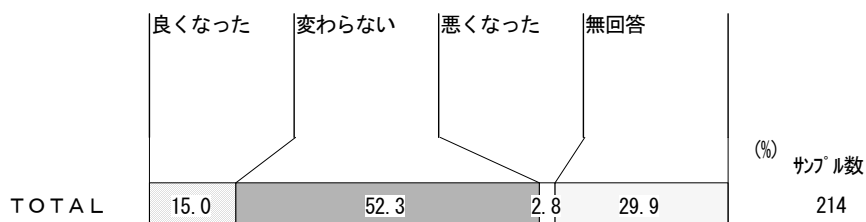
- ・ 人によって対応、説明のしかたが悪い。こちらにわかるように言ってくればいいのに、市役所の方しかわからないような言葉、用語というか、こちらが「それはどういう意味ですか？何ですか？」と聞き返すことが多い。(男性・7歳)
- ・ 専門用語での応対。(男性・37歳)
- ・ 応対は丁寧にしていたが、こちらから質問しないと、受けられるサービスを教えてもらえない。(男性・8歳)
- ・ こちらから質問しないと受けられるサービスを案内してもらえない。親の質問に対して答えがはっきりせず、時間が長々とかかり、いつも待ち時間が長い。(女性・3歳)
- ・ もっと情報をもらいたい。(男性・22歳)
- ・ 書類提出くらいときは、充分対応ができていますと思いますが、少し込み入った相談の時には、もっと落ちついた静かな場所で対応していただける環境がほしいです。(女性・25歳)
- ・ プライベートなこと、個人情報などが、他の人に聞こえる。(女性・10歳)
- ・ 相談に行っても満足する解答が得られない。事務的。(女性・30歳)
- ・ 保谷庁舎まで行くのに時間がかかり、交通機関も使用しづらい。(田無庁舎ですべてできるといいと思う。)(男性・42歳)
- ・ 保谷庁舎でのみ受付という手続きやサービス、相談が多いので、不便です。(女性・16歳)
- ・ 田無庁舎で質問しても、「わかりません」と言われることが多く、「保谷庁舎の方が詳しいので」とのことで、結局、保谷庁舎へ行かなくてはならないことが多々あった。両方の庁舎に課を設置しているのに、不便さを感じます。(女性・7歳)
- ・ 福祉を受けたくて窓口へ行っているのに事務的なことばかり、事業所とのパイプラインになって利用しやすくしてほしい。(女性・9歳)
- ・ なげやり、やる気なし、自分の仕事のことだけしか言わない。他の課のことを何も知らない、早く帰れと言わんばかり、障害者をバカにした態度、何もかも面倒そう。(男性・4歳)
- ・ 「他の課(保育課社福協など)の管轄ですからわかりません」と全く知ろうとしていない。利用者の求める情報は多くの課にまたがっている。不勉強。興味なさそう。(女性・2歳)
- ・ 親身になって対応していない(高飛者)。西東京市はこれでやっていっていますの一辺倒、改善の予知がない(男性・8歳)
- ・ 本人・家族は必要だと思っても、該当しないとされてしまう。必要な時以外は行きたくないと思わせるところです。(女性)
- ・ トータルで相談できる人がいない。「私は〇〇の担当なのでそれ以外はわかりませんご自分で調べて下さい」といわれたのにはあきれた。
- ・ 子どもがダウン症として生まれ、相談に行ったが発達センターが利用できる(ある)ことも教えてもらえず、その後も知るチャンスがなかったために、訓練を受けることができなかった。(男性・2歳)
- ・ 人によって言っていることが違い困る。横柄な態度の人もある。(男性・16歳)
- ・ 移動支援のサービス提供時間を増やしていただくようくり返しお願いしていたが、要綱の変更がない限り無理とはねつけられている。一度でもよいので、三人の障害児をかかえて1ヶ月間毎日送り迎えを1人でやってみていただきたい。(男性・8歳)

## (5) 5年前との比較

問 37 約5年前(平成 20 年)とくらべて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 38 問 37 のようにこたえたのは、どのような理由からですか。

5年前に比べて、障害者のサービスが「良くなった」と感じている人は 15.0%、「悪くなった」と感じている人は 2.8%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

## ① 良くなった

- ・ 5年前は就学前だったので、受けられるサービスが少なかった。(男性・11歳)
- ・ 良くなったと思いたいが、コロコロと制度が変わるのでついていけない。(男性・18歳)
- ・ 意外と自然に利用できるようになってきたところ。(女性・27歳)
- ・ 以前は担当が違ってたらい回しにされることもあり、ガッカリした覚えがあります。(男性・13歳)
- ・ 学校の特別支援級の対応がよくなった。(男性・8歳)
- ・ 通所施設に関しては、運営を民間に委託して、大変良くなった。利用者の声が届く様になった。(女性・30歳)
- ・ 利用できるサービス、対応などは良くなっていると思う。(男性・45歳)
- ・ サービスの選択肢が若干増えたと思います。(男性・8歳)
- ・ 支援してくれる人が親切だから。(男性・69歳)

## ② 変わらない

- ・ いろいろあっても本人が利用できないので (男性・19歳)
- ・ 支援センター等に深くかかわっているといろいろなサービスがあることがわかるが、少しでもかかわらなくなるとまったく情報が得られない。障害者かわからないグレーゾーンの子どもたちはあまりサービスを受けていない印象がある。(男性・11歳)
- ・ 実感として感じるものが現在のところありません。(男性・17歳)
- ・ 自分の生活状況が変わらないので。(男性・15歳)
- ・ いつも同じ事業所を利用して変化を感じないので。(男性・21歳)
- ・ 少しずつ変化していて…ズーと以前よりは良くなったと思いますが、5年前だと…特に変わってないと感じます。(男性・24歳)
- ・ もっと障害者に対して、手続きしやすく、わかりやすいといいと思う。(男性・42歳)
- ・ 特に良くなったと思える部分がないと思うので。(女性・25歳)
- ・ 高齢者向けのサービスばかりで、子ども用のサービスが少なすぎる。選択肢がほとんどない。(女性・9歳)
- ・ 充分でないことが多い。(男性・18歳)
- ・ 6年前転入したので良くわかりませんが、変わらないと感じております。(男性・18歳)
- ・ 障害者のグループホームやレクリエーション施設があまり増えない。(女性・30歳)

【知的障害者】

- ・ 障害者が安心して生活できるようにはなっていないと思うからです。(男性・36歳)

③ 悪くなった

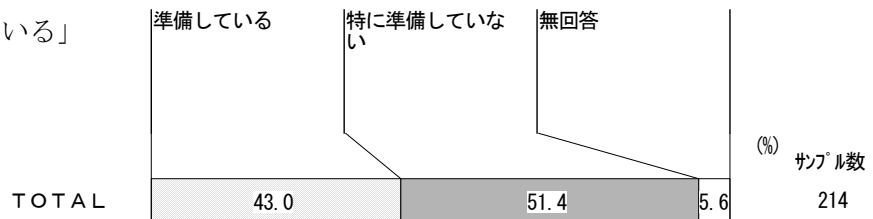
- ・ 障害児が増えているのに、特別支援学級の小・中・高が増えない。(男性・8歳)
- ・ 障害者自立支援法のもと、サービスに対する自己負担額が増したときいています。それって福祉とは言えないです。(男性・7歳)
- ・ しょうがいのおもいひとばかりが、しえんのたいしょうばかりで、かるいひとでも、大変なひとはいっているのにわかってもらえない。(女性・48歳)
- ・ 選挙に出馬する時は必ず福祉について頑張りますとっているのに、当選後は全くといっていいほど福祉の改善するわけではなく、逆に財政難になると福祉手当から減らして行く。ひどいと思う。財政難というのであれば議員の人達の給料を減らしてからにしてほしい。(男性・23歳)

10 災害対策について

(1) 災害への備え

問 39 地震や台風にそなえてなにか準備をしていますか。(○は1つ)

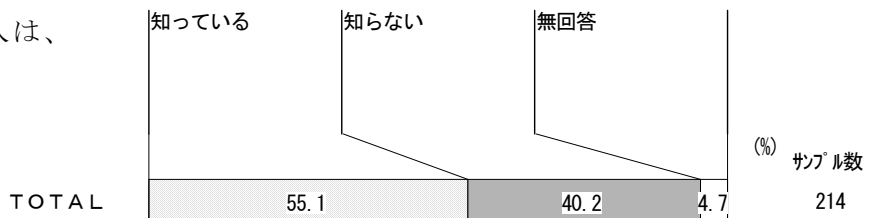
災害に備えて何か「準備している」人は、43.0%である。



(2) 避難所の認知状況

問 40 地震や台風のとときにどこにいけばよいか知っていますか。(○は1つ)

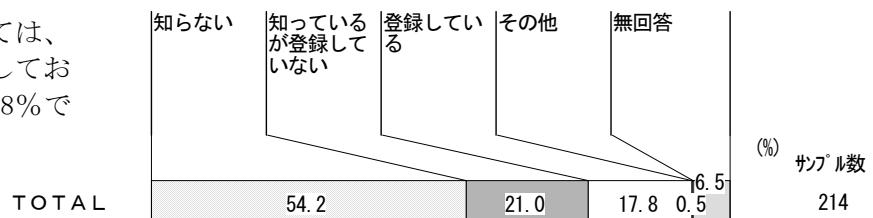
避難所を「知っている」人は、55.1%である。



(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 41 災害時要援護者登録を知っていますか。(○は1つ)

災害時要援護者登録については、54.2%が「知らない」と回答しており、「登録している」人は 17.8%である。

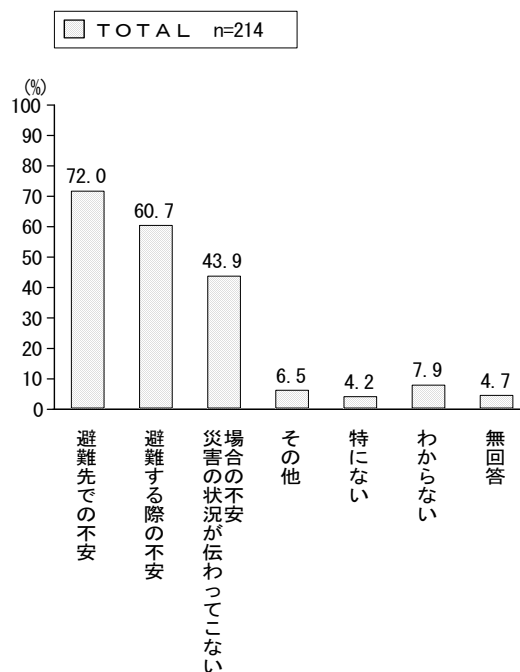




## (4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 42 地震や台風などの災害が起こったときの不安はなんですか。(〇はいくつでも)

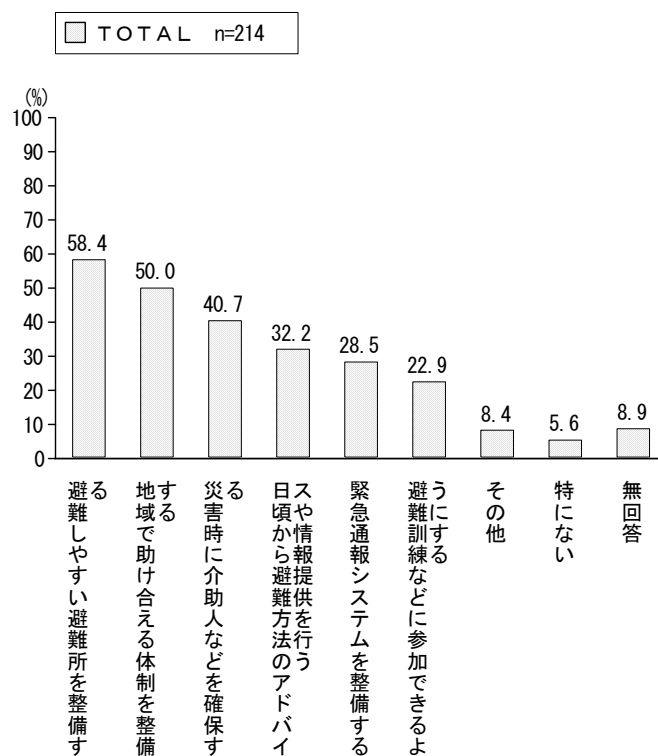
地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難先での不安」をあげる人が 72.0%と最も多く、次いで「避難する際の不安」が 60.7%で続いている。



## (5) 必要な災害対策

問 43 災害にそなえて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

必要な災害対策としては、「避難しやすい避難所を整備する」ことをあげる人が 58.4%と最も多く、次いで「地域で助け合える体制を整備する」(50.0%)、「災害時に介助人などを確保する」(40.7%)と続いている。



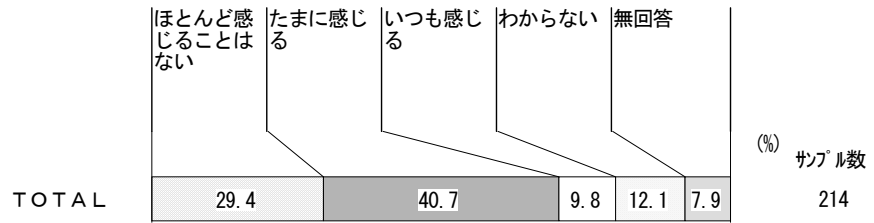
## 11 差別や人権侵害について

### (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 44 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 45 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、40.7%の人が「たまに感じる」、9.8%が「いつも感じる」と回答しており、あわせると約半数の人は、何らかの差別や人権侵害等を感じている状況がうかがえる。



#### 【参考】平成 13 年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は 13 年度に比べて 1.7 ポイント増加、「いつも感じる+たまに感じる」は 3.6 ポイント増加。

	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
13 年度 n=354	27.7%	33.9%	13.0%	21.2%	4.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

#### ① 言葉や視線

- ・ ジロジロと見る。(女性・35 歳)
- ・ 大人が顔をじっと見ている時があるのがいい感じしません。(女性・18 歳)
- ・ 外見では障害があるように見えないので、外出先で「キャー」となったりしたときの周囲の目が冷たい。(男性・4 歳)
- ・ 視線や、自然とまわりから人がいなくなることがある。(男性・18 歳)
- ・ 学生に指を差され「おかしい」と笑われたことが多い。声を出したりすると視線が気になる。電車で席を立たれたこともありました。とても悲しいです。(男性・26 歳)
- ・ とにかく外出した時に、ジロジロ見られる事は腹立たしい。子どもだけでなく、大人でさえ、失礼な人がいる。(女性・29 歳)
- ・ 外出時など、障害を理解してもらえないとき、周りの視線など。(男性・45 歳)
- ・ 特別支援学校の副校長に、友人がバスに乗せる時に首からさげる名札を「おじいちゃんおばあちゃんがお向えに行く時つけた方がいいですか」ときいたら、「あなたね！こういう子どもたちを誘拐すると思っているの？」と言われたそうです。(男性・7 歳)

#### ② 学校

- ・ 保育園（無認可）の門前払い。(男性・3 歳)
- ・ 特別支援級に通っているというだけでいじめられたことがあります。(男性・8 歳)
- ・ 難しく勉強がわからないときに教えてもらえず、スルーされてしまう。(男性・15 歳)
- ・ 普通級に入れない、幼稚園にも保育園（私立）にも入れない。市の一時保育も西原に限定されてしまった。なるべく隔離して育てようとしている。(女性・2 歳)
- ・ 認証保育所で、「座っていなければいけないときに座ってられないとダメ」「歩けないと散歩コー

スが変わるのでダメ」「障害があることでこのようなことを言われるのは現実です」など、子どもも見ずに言われたとき。(男性・2歳)

- ・ 同じ小学校に通っていても支援級と普通級に分けられているので子ども同士の差別や仲間はずれ等がある。対等な関係ではない。(女性・10歳)
- ・ 時々一人になったときに、昔「小学校、中学校」でいじめにあった事を思い出してしまうことがある。(女性・40歳)

### ③ 就労・職場

- ・ 出勤時、帰宅時、子どもたちに、イヤミをささやかれる。(男性・18歳)
- ・ 工賃を急にへらされたりする。(男性・21歳)

### ④ 交通機関

- ・ 交通機関等利用時の手帳提示時の対応。(女性・22歳)
- ・ 電車やバスに乗った時、公共の場 (男性・12歳)

### ⑤ 障害に対する理解不足や誤解

- ・ 差別や人権侵害程ではないが、障害に対する知識や理解が全くないと感じることがあります。成人になっても子ども達だけで行動させるところが難しいと思うことが多いです。(男性・20歳)
- ・ 目に見えて障害がわかりにくく、もたもたしていたりルールを知らずに無視してしまった場合にすぐく文句を言われたり「親のしつけが悪い！」と非難されてしまう。(男性・11歳)
- ・ 知的障害＝全員犯罪者のイメージ、「障害を持っている＝不幸」等マイナスの先入観があり隠してしまう。本当は知ってもらい、理解してもらい差別でなく、区別をしてほしい。(男性・12歳)
- ・ 障害者(児)に対して最近では理解されるようになりましたが、現実的には、なかなか厳しいものがあります。(男性・27歳)
- ・ 以前の就労先には、障害者に対しての理解のある人が一人もいなくて、理由もわからず辞めさせられた。(女性・30歳)
- ・ ケアホームを建てようとするとき、近隣の理解を得る必要があるということ。障害者も自由に場所を選んで住めるはずだと思います。もちろん、大声をあげたり、迷惑をかけることが多いので、その点を改善するというのは必須条件です。(女性・27歳)
- ・ 仕方がないとは思いますが、変わった行動をしていればおかしい人として見られるので、理解されていないのだろうと感じる。(女性・8歳)

### ⑥ その他

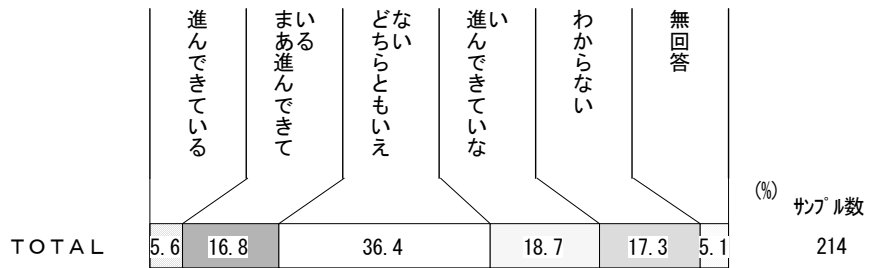
- ・ 親の負担を求める西東京市の介助員制度利用の際 (女性・9歳)
- ・ グループホームやケアハウスをつくらうとするといまだに周囲に反対する人がいる。(男性・36歳)
- ・ 健常者優先。(男性・37歳)
- ・ 「みなさんどうぞ」といわれるイベントなどでも「ただし、集団への指示で動けること」という条件をいわれる。それができない障害なので、表向き差別していないというが結果的には線引きされていると思う。
- ・ どこの学校に行っているのかと聞かれたとき、相手の顔が暗い感じになる (男性・15歳)
- ・ 就職が一番苦労すると思います。雇用率を上げて、結局手帳をあわてて取得したような極軽度の人が就職してしまうという現実、改善が必要です。(男性・7歳)
- ・ 本人が状況を説明できないので、何もしていなくても悪い事をしたように思われる。(男性・21歳)
- ・ 転居が難しい。(男性・4歳)

【知的障害者】

(2) 市民理解の進捗

問 46 障害に対する市民の理解はすすんできていると思いますか。(○は1つ)

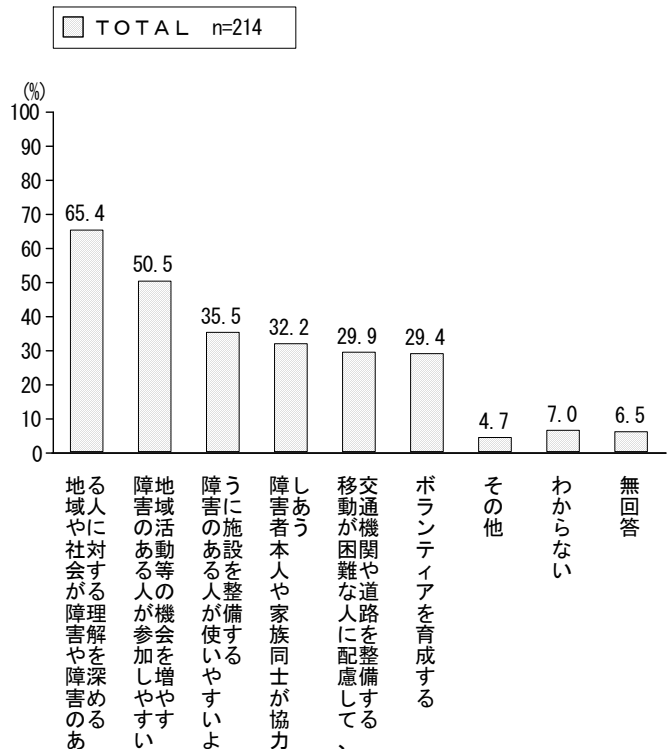
障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は 5.6%、「まあ進んできている」(16.8%)をあわせると、約2割の人は市民の理解が進んできていると考えていることがわかる。



(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 47 障害のある人たちが地域や社会に積極的に参加するために、とくに大切なことはなんでしょうか。(○はいくつでも)

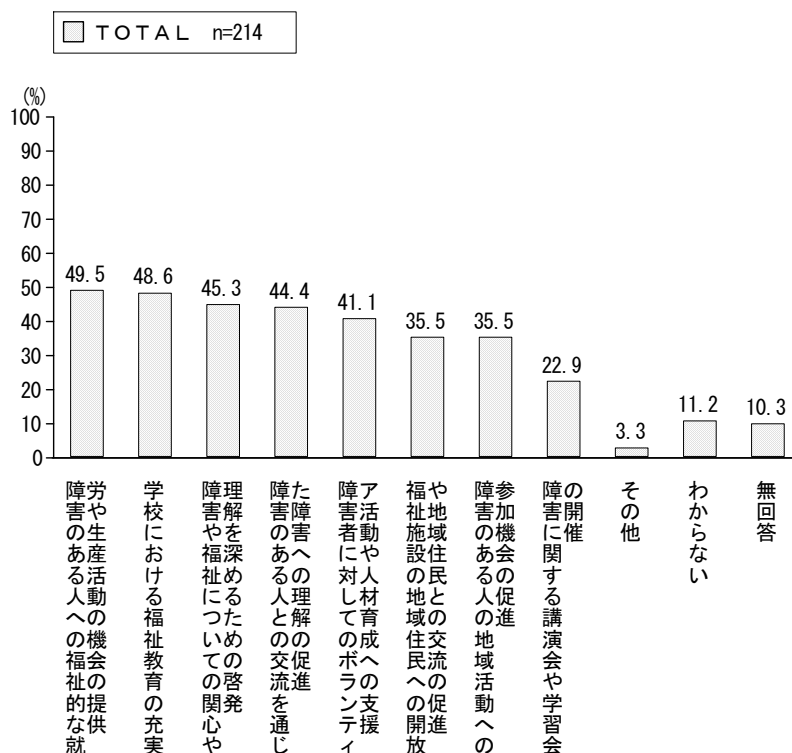
障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める」ことをあげる人が 65.4%と最も多く、次いで「障害のある人が参加しやすい地域活動等の機会を増やす」が 50.5%で続いている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 48 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、なにが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障害や障害のある市民への理解を深めるためには、「障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」をあげる人が 49.5%、「学校における福祉教育の充実」が 48.6%などとなっている。

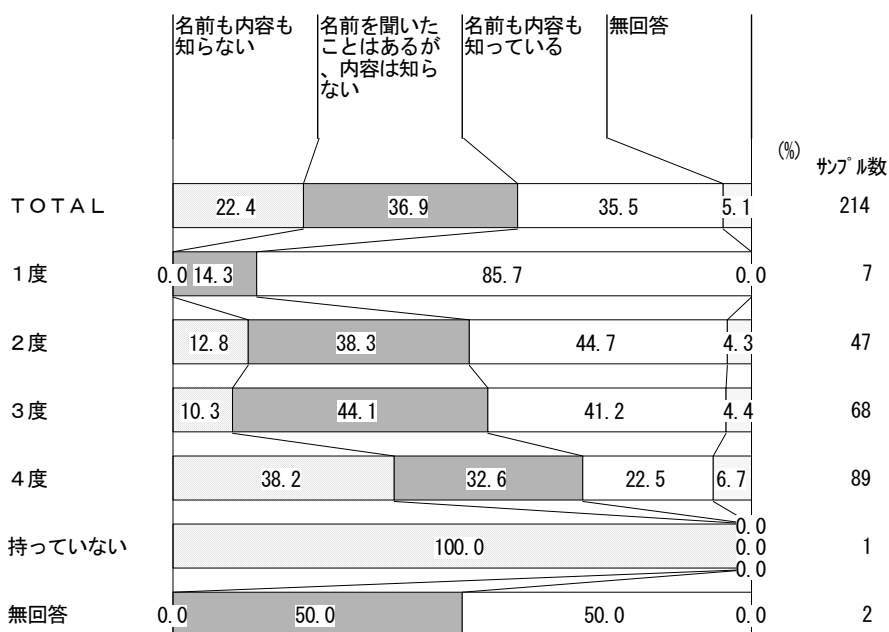


(5) 成年後見制度の認知状況

問 49 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などで、判断する能力が十分でない人の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は 35.5%である。

障害の程度別にみると、1度（最重度）の7人のうち6人が「名前も内容も知っている」（85.7%）と回答しているが、4度（軽度）では「名前も内容も知っている」人は 22.5%である。



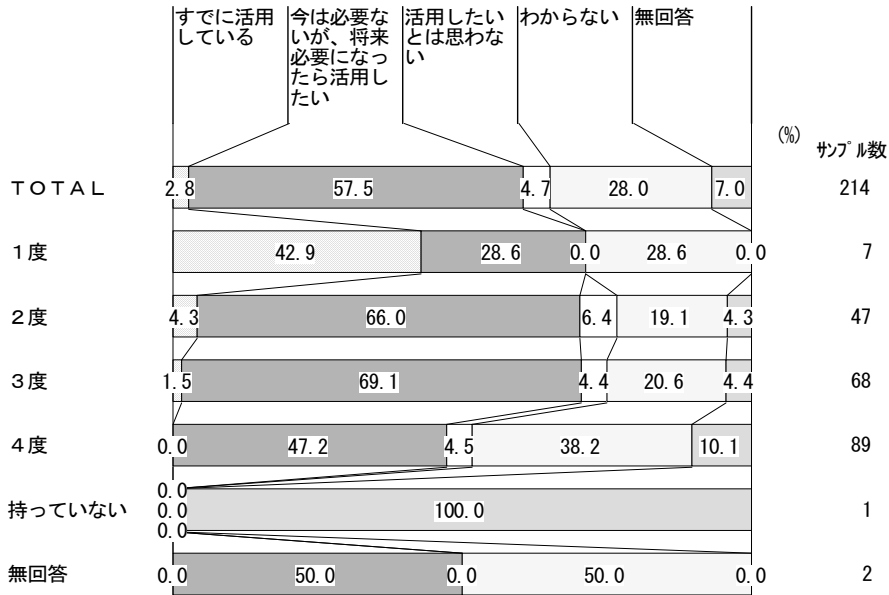
【知的障害者】

(6) 成年後見制度の利用意向

問 50 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度を「すでに活用している」人は2.8%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と考えている人は57.5%で、約6割の人には利用意向がある。

障害の程度別にみると、1度（最重度）では7人中3人が「既に活用している」。1度（最重度）、2度（重度）、3度（中度）では、いずれも約7割に利用意向があり、4度（軽度）のみ利用意向が47.2%と低くなっている。

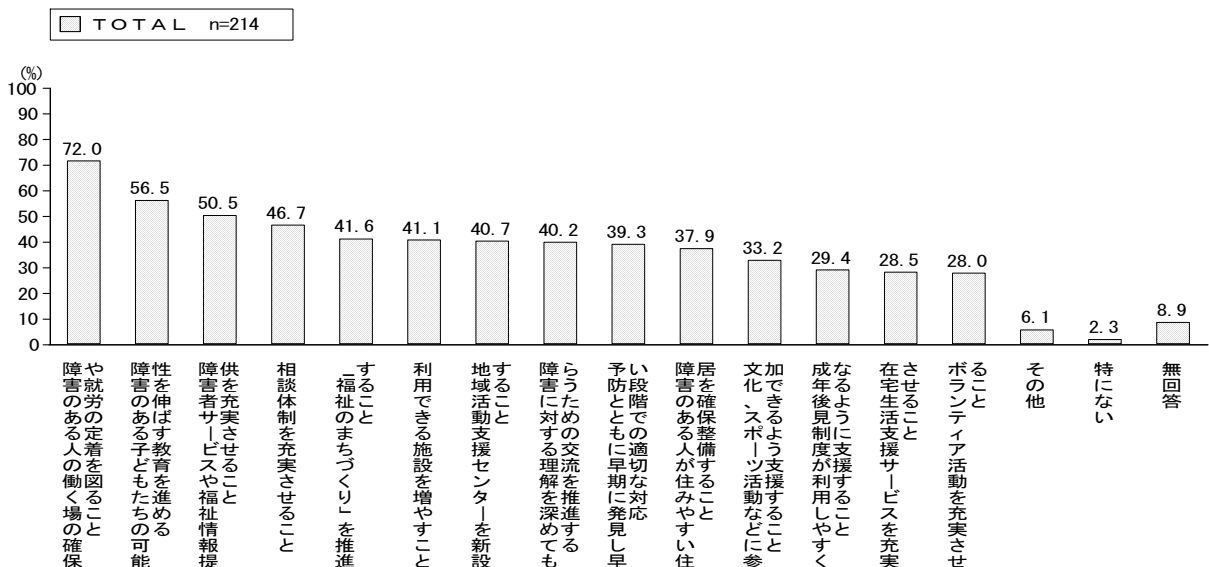


12 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 51 今後、障害者施策をすすめていくにあたって、市はとくにどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「就労のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」をあげる人が72.0%と最も多く、次いで「障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進める」ことが56.5%で続いている。

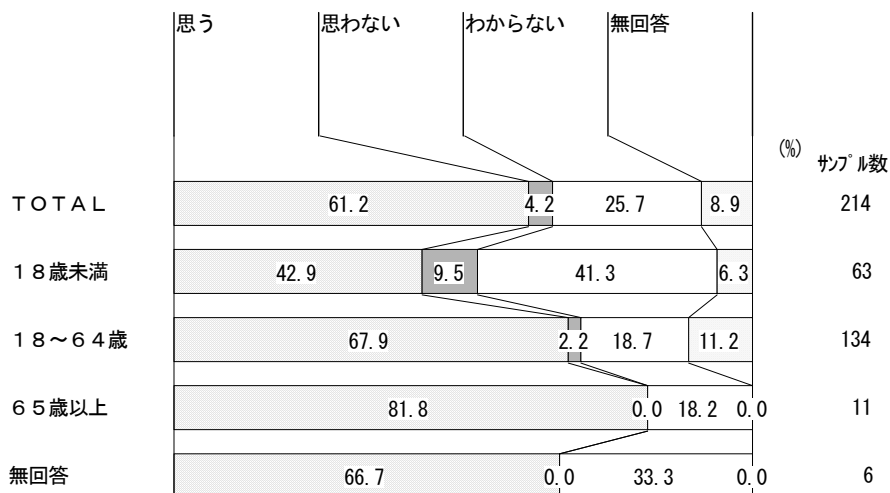


## (2) 居住継続意向

問 52 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

61.2%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。

年齢別にみると、18歳未満では、すみ続けたいと「思う」は42.9%で、約1割の人は「思わない」(9.5%)と回答している。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は13年度に比べて4.1ポイント減少。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13年度 n=354	65.3%	3.4%	24.9%	6.5%

## (3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介しよう心がけた。

## ① 情報提供に関すること

- ・ 障害福祉課の方で説明がこちらは何もわからないということが多いです。子どものことで心配だし、色々聞いておきたいと思ってもしっかりと聞けません。(男性・7歳)
- ・ 障がい者福祉関連のまとめた冊子があると良い。(障がい別に、制度(都・市)支援制度。施設(市・NPO作業所)相談窓口、団体、ボランティア、サークル活動等一つにまとめたもの。(女性・38歳)
- ・ ひいらぎに通っているが、愛の手帳の取得について教えてくれたのは、職員でなく通所仲間であった。手帳取得によってうけられるサービスなども取得するまで知らなかった。早い時期から保健師などを通してそういう情報を教えてもらえるとよい。(男性・3歳)
- ・ 障害者サービスの情報をもっと積極的に教えて下さい。「冊子を読んで」の対応ではなく、使える可能性のあるサービスを口頭でも教えて欲しいです。結局本当に使えるサービスは障害者(児)仲間から全て教えてもらったという状況です。(男性・8歳)
- ・ 学校を卒業してしまうと、福祉に関する情報がなかなか入ってこないもので、定期的に勉強会や面談などがあるとよい。本人が出るのが難しい場合は保護者が参加できるとよいと思う。(男性・20歳)

## 【知的障害者】

### ② 手続きに関すること

- ・ 年度や新たに利用する事業所などが増える度に、子どもについての事細かな資料を作成しなくてはならず、保護者にとっては何度も同じようなことを書かなければならないので大変苦痛です。更に、同様な内容でも提出先ごとに少しずつ質問のされ方が違うので回答の仕方も毎回変えなければなりません。子どもの為にと膨大な時間を費やすことになります。
- ・ 個人情報保護の問題はあるかと思いますが、書類提出する際、ほぼ間違いなく関係各所への情報提供の旨を承諾するようにと確認されるので、始めから統一の書式で情報共有していただく方が手間がないと思います。都内、少なくとも市内の学校・デイサービス・各福祉事業所等への障害児・者の状態に関する提出書類の書式の統一を強く希望します。(女性・8歳)
- ・ 日常生活用具では、毎回、医師の意見書が必要とのこと、金銭的にも負担です。(男性・9歳)
- ・ 臨機応変な対応が難しい当事者にとっては、様々な場面で支援の仕方が統一されていないと、混乱します。就学前や就学後などで、引き継ぎのための書類は必ず用意されていると思いますが、活用されていないと感じます。何のために書いているのか分かりません。(女性・8歳)
- ・ 子育て支援一受給者証等は田無、作業所一福祉全般は保谷に分かれており手続きが大変で、保護者は日常、子ども達の世話で疲れている上に、1か所で用事を済ませることができない。このような負担を保護者に強いているのは極めてまずいし不満が大きい。利用者の目線に立ったサービスとは思えません。1ヶ所で済ませられるような改善をお願いします。(男性・18歳)

### ③ 相談に関すること

- ・ 市役所の障害担当の人は、もう少し親身になって相談に乗ってほしいです。結論を出してほしいです。事務的対応です。少し不満です。(女性・30歳)
- ・ 市の担当者は、御用聞きになるくらいで障害者家庭の困っていることを拾いあげていかないとダメ。完全に待ちの姿勢の仕事しかしていない。(男性・8歳)
- ・ 障害のある息子と共に他区から転入して来ましたが西東京市の職員の皆さんがいつも親切に対応して下さいるので、ほっとして、暖かさを感じ感謝しております。(男性・40歳)
- ・ 社会に出た時に、もっと相談できる場所などを充実させて下さい。(男性・19歳)
- ・ 少なくとも、私が訪問した際の市の窓口の方は、障害者に理解のある公務員だとはとても思えなかった。自閉症児を連れていけば、さわいだけ行方不明になる可能性も高いのに、何一つ子どもの対応をせずに親と相談をしよう、などという準備不足を見せつけられてきた。(男性・8歳)
- ・ 一番必要なことは本人が必要とする相談の窓口の一本化。支援の対策をわかりやすくしていただきたい。市の福祉課の方から発信(本人に郵送)していただくと助かります。(女性・34歳)
- ・ ダウン症の子の母親です。成長の過程でその時その時の困難や悩みが生じますが、ほとんどの場合、家族内でどうしようか、こうしようかと試行錯誤で歩んでおります。もしかしたら新しい道や、よい知恵があるのかもしれませんが、どんな機関、団体、組織、人脈につながったらよいのか、そのコーディネートのようなことは本人と家族にはできません。行政は生きていく上での生活基盤を保証するところかと思われませんが、「よりよく生きる」上でのアドバイザーとしての役割も担ってもらえるとハンディキャップをもつ人とその家族はどれだけ救われるかわかりません。(男性・10歳)
- ・ サービスの希望はあっても、現状の制度で利用できるのか、又個別で利用しやすい事業所はどこなのかなど相談コーディネートしてほしい。事業所の内容を一覧にしたり、必要な項目をえらんでいくとえらべるとかもっとわかりやすく、利用しやすくしてほしい。(男性・18歳)

### ④ 各種サービスに関すること

- ・ 日中一時支援(短期入所含む)、移動支援を利用していますが、受けられる時間に差があり、個々に対応できていないように思います。息子の場合、多動傾向にあり外出希望が多くなります。移動支援の時間が16時間しかない為、1ヶ月の自己負担がかなりあります。一方日中一時は使い切れない程時間があります。各々のニーズに反映して頂けたら、家族の負担が減るのではないかと。(男性・11歳)



- ・ 高齢者には紙オムツの支給制度があるが、障害者にも是非導入していただきたい。(女性・25歳)
- ・ 「一歩さん」が就労に特化して、頑張ってもらいたいです。生活支援はまた別でできるように。そこを中心に「暮らしていくこと、生きていくこと」をサポートしてほしい。(女性・18歳)
- ・ 移動支援(ヘルパーの派遣)について制約が多い。サポートを受ける側が必要とする支援(ニーズ)を満たしていない。学校の送迎の目的の利用はダメ。習い事の送迎もダメ。下校してから遊びに行くときの利用はOK。一番必要とする時はどんな時か。親が病気、下の子の世話、急用など助けてもらいたい時利用できない。障害児の親は日頃精一杯子どもに関わり時間を費やしている。本当に助けてもらいたい時、利用できないくやしさがある。もっとニーズを聞き取ってほしい。(女性・10歳)
- ・ 18才以下の福祉サービスの時間数が少なすぎます。移動支援、生活サポート、もっと増やしてもらわないと、親が働き続けることができません。(男性・13歳)
- ・ 他市・他区に比べ、サービス支給時間がかなり少ないと思います。(移動支援など)(男性・11歳)
- ・ 他市・他区にはある放課後事業(児童デイ etc)も市内には増えなかったり、親がべったり子についてないと利用も難しい。現実困っていること、要望に少しでも検討し、支援してほしい。
- ・ 障害児・者もただ制度やサービスにぶらさがっていきたくて、と思っているわけではありません。成人していきなり自立といわれても難しいので、子どもの頃から自立していくための準備のために支援をおねがいしたいですし、就労もできるだけできるように場の確保や相談先の確保をお手伝いいただければと思います。
- ・ 移動支援の時間を40時間/月に限定している理由が不明、障害児の親は「働くな」という政策的誘導を行っていると思えない。(男性・8歳)
- ・ 石神井特支に通っていますが、練馬区と西東京市のサービスの時間の差に驚き、あきれいています。それに移動支援が16時間なのに特定の人だけ倍の時間支給されていることに対して納得いきません。(男性・8歳)
- ・ 障害者の高齢化のサービスの充実をお願いします。(男性・33歳)
- ・ 福祉サービスのあり方、特に児童は、近隣の区・市と足並みをそろえるようにしてほしい。学区(学校)が同じでも受けられるサービスが違うのは変な感じがして納得できない部分です。(男性・11歳)
- ・ (母親の立場から)フルタイムで働いているため、子どもは入学後、学童にも通っています。バス停からは自分で学童まで連れて行かなくてははいけません。仕事があるので、人に頼まないといけません。毎日のことなのでファミサポにお願いするとかなり費用がかかります。また信頼できる方にめぐりあえるか不安です。子どもに障害があるからこそ、将来が不安で仕事をしているのに、続けていくのが難しいと感じています。学童の預かり時間も短いです。そのあたりの福祉サービスが充実することを願っています。(女性・35歳)
- ・ 他市などでは、子どもの通学の付き添いを移動支援を使って利用できたり、さらに利用時間数が西東京市よりもはるかに多く、サービスの差を感じます。放課後児童デイサービスも、事業所が沢山あるところと1、2ヶ所しかない西東京市との違いが、大きすぎるように感じます。また近い将来、大人になった時に働ける作業所や、グループホーム、入所施設などが無い事にも不安があります。障害のある子の親・家族も一緒に活動参加し、障害のある人達も安心して暮らせる市になって欲しいと思います。(女性・7歳)
- ・ 福祉に関する事業所は西東京市でも少しずつ増えています。それに携わる人々の専門性が乏しいような気がしています。ボランティアではない専門性のある人々がしっかり柱となって事業を支え、ボランティアの幅、人数を増やしてほしいものだと思います。(女性・21歳)

##### ⑤ 各種施設等の整備に関すること

- ・ 西東京市は、隣接する市に比べ福祉作業所の数が少ないので増やして欲しい。現存する作業所の近辺に住んでいる方や遠方でも一人で通所できる人はいいいのですが、送迎を要する方々にとっては現在の数では負担が大きいと思う。(男性・18歳)

## 【知的障害者】

- ・ さざんかクラブの成年向けのようなのがあると助かる。活動に積極的に参加しなくても家とはちがうのんびりできる場所が欲しい。(男性・19歳)
- ・ 児童デイや日中一時の施設をもっとたくさん使ってほしい。(男性・21歳)
- ・ 通勤寮等の施設が、近くにできればと思っています。わざわざ新しい施設を作るのではなく、公営住宅の空屋、廃校となった学校をリフォームする等といったようにして、障害のある人々が安心してくらし、仕事をがんばり、生活を楽しくできればと思います。(女性・63歳)
- ・ 親が病気、冠婚葬祭などで家にいられないとき、気軽に安心して障害児(者)を宿泊させられる施設を早急に作ってほしいです。そこで何ヶ月(3ヶ月位)の宿泊自立訓練などができるようにしてほしいです。市が運営するのが難しいようなら、NPO法人に補助を出すなどして宿泊ができる施設を早く作ってほしいです。(男性・22歳)

## ⑥ 住まい(グループホーム等)に関すること

- ・ 一番望んでいるのは、障害者(児)がどこでくらしに行けるのかという場だと思います。安心してくらしにいける施設の建設を是非望みたいと思います。施設からグループホーム・ケアホームへという流れの中で、大変な事とは思いますが、西東京市として是非家賃の補助・助成をお願いしたいと思います。(女性・25歳)
- ・ 作業所とグループホームが連携し、就労と住居、衣食住が一連の流れで安心して障害者が生きていけるような生活環境を作って欲しい。作業所と同様グループホームの建設にも目を向けて、設立しようとしている人達・団体に市が協力、援助して欲しい。(男性・17歳)
- ・ 障害者の親亡き後、安心してくらせるケアホーム・グループホームを作ってください。特に市内にはケアホームがほとんどなく、他の地域に移り住ませるしかないのが現状です。(男性・22歳)
- ・ 近い将来入所を希望していますがなかなか施設がありません。高額な入所金を支払わなければ、入所できない現状です。是非、西東京市に入所施設を要望します(ケアハウス)。(男性・27歳)

## ⑦ 乳幼児期の対応、療育に関すること

- ・ 幼児の療育が満員で何度も断られました。1年以上待って入っても「こんな子は言葉はしゃべれない」等、現場の先生に言われ、大変悲しい思いをしました。(男性・4歳)
- ・ 西東京は他市に比べ乳幼児の障害者福祉は充実していると感じるので、さらに利用利便をよくすればよい。(男性・3歳)
- ・ 早期の療育でカバーしない限り、自閉症児が社会に出ていくのは難しい。逆に早期対応により、劇的に状況が改善する例も多いが、このための多額の費用を親に負わせることなく、公的に支援してほしい。(男性・8歳)
- ・ 私が働きたくて、保育園の見学を始めた時、園長先生から「うちの保育士はお子さんのことを理解できないと思います。辛いでしょうけど、これが現実です」と言われた。他の園でも、皆が座っているときに座ってられないとダメ、歩けないと散歩コースがかわってしまう、園の負担が増えると言われた。私は1つ下のクラスで見ただけじゃないかと相談したが、ダウン症というだけで断われた。市の窓口で相談したら「フルタイムで働いていなければ公立はムリです。」と言われたので、公立もムリ、認証は障害があってもムリなら、障害児をもつ親はどうしたらいいのかと聞いたら、個々の事情は聞いてもらえないと言われた。一時保育を利用しようと言われ登録したが、今年度から障害児は西原保育園しか利用できないと言われた。西原は家から遠いので、通うのがとても大変だった。西原は比較的取りやすいと言われたが、予約は月に3回しか当たらないこともあった。月に3日では一時保育を利用しながら働くなんてムリ。未就学児も預けやすい環境を作ってほしい。(男性・2歳)

## ⑧ 教育に関すること

- ・ 特別支援級の在籍人数が多すぎます。増設を希望します。可能性を最大限に伸ばすためには、少数団で取り組めるような体制でないと、教育できないと思います。(女性・18歳)

- ・ 発達障害の生徒は年々増えているのに、学校の教室が足りていない。専門の教師を増やす、教室の増設など環境を整えてほしい。子どもが田無特別支援学校へ通っているが一つの教室を2クラスで使用、作業室をクラスの教室に使うなどして、いい環境ではないと思う。(男性・15歳)
- ・ 発達障害があり、ボーダーライン周辺にいる子ども達の教育の場の選択肢がなさすぎると思います。支援級でも普通級でもない“どっちつかず”の状況では、支援級を選ばざるを得ないことが多いです。もっと普通級に加配職員を入れるなどの対応をお願いします。(男性・8歳)
- ・ 特別支援学級がある学校をもっと増やしてほしいです。中学校になるとレベルが高いのですが、支援学校ではもの足りない程度の子どもにとって行き先がない状態です。健常児とほぼ変わらない子ども用の学級と支援学校との中間の学級があるといいのにと心より感じています。(男性・11歳)
- ・ 障害者はこちら、健常者はそちらと分けるのではなく、できうる限り一緒に勉強させて欲しい。子ども時代に一緒に育つことによって、自然と障害に対する理解はうまれると思います。(男性・11歳)
- ・ 普通学校にいる時によく先生から「私1人でクラスの生徒みんなを見ないといけないので手をかけられませんので、支援学級なり支援学校へ行っただ方が良いと思います」と言われていました。クラスの人数が少なかったり、1クラスに2人の先生がいれば普通学級でもどうにかやっていけるのに、という人がけっこういます。(男性・11歳)
- ・ 副籍制度は下に小さい兄弟がいたりすると更になのですが、慣れない場所へ連れて行くという、親の精神面での負担や経験者の声では、ただ教室内に居ただけなどと受ける側にも余裕がなくあまり利用したいとは思えない。他、兄弟の学校行事に連れて行きにくいなど…。(男性・9歳)

### ⑨ 放課後の活動等に関すること

- ・ 障害児の放課後の過ごす場所が不十分に思う。高校卒業後となるとさらに心配です。行き場所もなく、親が毎日散歩に連れ出したりするようなのかも…など。(男性・9歳)
- ・ 学童保育について、各学童で障害児3人(定員)となっている様だが、3人といっても重い子から軽度の子もいるので、必ずしも同じ状況とは言えない。明らかに全体の定員は空きがあるのに障害児は定員(3人)を満たしているので入れないというのはおかしい。本当に身辺自立もできていない状況の子であれば介助者(職員)も増やす必要があるが、手のかからない子もいる。もっと柔軟な対応をしていただきたい。(女性・10歳)

### ⑩ 雇用・就労に関すること

- ・ 今働いている作業所も定員がいっぱいで、今後、西東京市の作業所では受け入れられなくなり、他市に働きに出ることになると、地域での活動ができなくなると思います。作業所を新しく作る、企業(市内)に障害者雇用の人数を増やすなど、就労しやすい環境を充実して下さい。(女性・18歳)
- ・ 自閉症の専門機関の武蔵野東学園が近いため、西東京市にも自閉症の人がたくさん住んでいます。武蔵野市は自閉症に合う福祉施設が多いですが、西東京市は少ないと思います。こういった作業所をもっと増やしてほしいです。(男性・18歳)
- ・ 市の方でも働く場所を企業とタイアップして増やしてほしいと思います。(男性・18歳)
- ・ 民間企業だけでなく、市でも受け入れるべきです。市内の特別支援学校の生徒が清掃実習で毎週田無庁舎に行っています。まじめにコツコツと頑張る人がたくさんいます。市の中での業務でできることがあると思います。(女性・18歳)
- ・ 西東京市は障害を持った子が働く所がないと先輩母から聞きました。子どもを持つ親として将来が不安でしょうがありません。(男性・14歳)
- ・ 仕事をする作業所なども、西東京市は少ないと思う。(男性・15歳)
- ・ 発達がゆっくりでマイペースであるだけで、日常生活に問題はないが、就労できる場は将来あるのか、という不安がいつもつきまとう。作業所でも飲食店でも、もっとたくさん働ける場があると社会と関わって生活していけると思う。(男性・12歳)
- ・ 障害者の働く場所とそれを支える人材を増やしてほしいと思います。(女性・21歳)

## 【知的障害者】

- ・ 義務教育の間、他市で過ごし、また保谷に戻ってきたら、いろいろな面で（放課後対策・五日制・公民間事業（くるみ学級）など）活発に行われており、うれしく思ったものです。今後、卒業生がどんどん増えるなか、就労の問題は欠かせない大きな課題だと思います。（男性・32歳）
- ・ 一般の方々に理解していただくのは大変だと思います。障害の程度により接し方、お仕事の内容の変化など、たずさわる方々のくふうが必要だと思います。障害者におしつけるのではなく障害をうまく利用できるよう、そんな所をうまくひきだしていただけたらと思います。（男性・40歳）
- ・ 私の勤務先では、障害者雇用を促進するだけでなく、障害者が自分で業務を考え、業務をマニュアル化し、後輩の障害者を教育するということで、今まで外注していた業務を障害者の方々が行うことで年間数千万円のコストカットを実現しました。可能性を伸ばしてあげることで実際に経済効果が出た一例です。民間と自治体でスタンスもできる事も異なるとは思いますが、短期的ではなく長期的、継続的に、住民（障害者含む）と自治体双方にとって良い結果となる施策、制度が導入、実施されることを期待しております。（女性・2歳）
- ・ 卒後の就労場所は、増やして欲しいです。（男性・13歳）

### ⑪ 防災・防犯等、緊急時の対策に関すること

- ・ 先日、ヘルパーさんと出かけ先で、行方不明になりました。2時間後に見つかりましたが、緊急時の窓口があると安心です。警察との連携システムとか、“障害者行方不明”をネットで検索したら、多勢の障害者が今も見つかっていない場合があります。反省して迷子札みたいな物を持たせるようにしましたが、これも変な人に悪用されるのが恐いし、悩んでいるところです。事故も心配ですが、何より一番心配なのはなくなる事です。この事に関して、いい方法はないか、親、行政、力を合わせて考えていけたらと思います。（女性・27歳）
- ・ 災害が起きた時の避難場所の確保をお願いします。（男性・27歳）

### ⑫ 権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ 杉並区では障害者は無料で成年後見制度が利用可能。西東京市でもお願いしたい。（男性・8歳）
- ・ 市長選は身近なものですから息子を連れて参加していました。見るからに障害者の親子連れとわかり選管のオジサンがやってきて「教えたり相談なんかしないように」と。このような経験は初めてでした。「教えたりしていませんけど」と申しましたが…複雑な思いがいたしました。「面倒な者は来ないように」と言われたような。投票はやっぱり難しいかな、本人「書く人いるよ」と言うのですが、独特の雰囲気の中で勇気をもって神経を使いながら投票所に行きましたが、今後は考えないと思います。（男性・32歳）

### ⑬ 市民や地域の理解等に関すること

- ・ 軽度の知的障害に対する理解が、まだまだありません。重度の方はたしかに、いろんな負担があり、たいへんなので支援やサービスが受けることができ、情報も得やすいと思います。軽度の子はいろいろ自分でできますが、その分、一般の事を（普通）求められます。トラブルも増えます。家族もトラブルを回避できるよう指導していますが、周りの理解が不足していると思います。もっと軽度の障害者を理解してもらうための行動をとっています。（男性・19歳）
- ・ 特別支援学級には昨年度から通っています。中学、高校、社会人へ成長していく中で、様々な支援を受けないと、この子は生きていけないんだろうな、と漠然と感じています。健常者も思いやりを持って障害者へ接してくれるような地域作りができるといいです。（男性・10歳）
- ・ 好んで障害者になる人はいません。障害について理解を深めることで地域で生活していくことも可能になるのかなと思います。認知症サポーター育成のように、障害について小さい頃から関わったり、教わったり知ったりすることで対応できるように思います。自分の子どもが不審者扱いされないよう、地域との交流を大事にしています。小さい時から地域になじむ大切さはあります。（男性・13歳）

## ⑭ 医療に関すること

- ・ 歯医者で「痛かったら手を挙げて下さい」と言われても、本人は「痛かったら手を挙げる」という行動につながらないので、我慢して治療を受けている。(男性・12歳)
- ・ 今後障害者はもっと増えます。医療的ケアのできる機関も増やしていくべきです。学校時代、気管内吸引が必要で、親の負担も重く、大変でした。(男性・13歳)
- ・ 知的障害者が安心して通院できる、専門歯科医院や療育センターのような所がないので、遠い所へ時間をかけて通っています。医療が充実していればとても安心して住めると思います。(女性)

## ⑮ 親亡き後の不安

- ・ 我が子の場合、人と接することが嫌いで、自ら支援を求めることがあまりないので親亡き後に、社会から孤立してしまうのではないかと不安に思っている。自ら支援を求めない障害者にも目が届くようなサービスを期待している。(男性・20歳)
- ・ 個人の希望ですが、この地でずっと暮らしたいと言っています。地域で暮らし続けるための具体的な施策、施設の整備など必要と思います。知的障害を持った人が自立して(親から離れて)暮らしていくのは、まだまだだと思います。故にいまだに親なき後のことが日常的に頭から消えることはありません。(男性・36歳)

## ⑯ 家族等への支援に関すること

- ・ 下に更に兄弟がいると人手も足りなく、父親が仕事となると、行事に行くことさえ困難となり、健常児にもかわいそうな思いをさせている。障害児の兄弟の心のケアにも、目を向けていただきたい。親とは違う悩みを相談したり、分かち合える場がもっとあればと思います。(男性・9歳)
- ・ 母親も働ける環境をつくってもらいたいです。長期の休み(学校)の時は預け先がないので、社宅で生活することが可能なのに、ショートステイ等に行かねばならず、在宅生活が充実しているとは言えない状況です。日中一時等(医ケアができる。)が市内にあれば、在宅生活の環境が向上すると思います。(男性・9歳)

## ⑰ 障害者施策の推進、計画策定等に関すること

- ・ 障害者が住みやすい自治体を目指すということは様々な課題もあると思いますが、自治体にとっても大きなメリットがあると思います。住みやすい自治体であることは転入者の増加にもつながり、また障害者の勤労支援が充実すれば経済的にも大きな利点となると思います。「何ができない」ではなく「何ができるか」そして「何をできるようにするか」という視点で施策を進め、是非ポジティブな支援を導入していただきたいと思います。(女性・2歳)
- ・ 日本はまだまだ障害者施策は遅れている、という強い自覚をもってサービス改善をめざしてほしい。障害児をかかえた家庭が、どれほどの苦難と家庭崩壊の危機に直面しているかを、身をもって感じて欲しい。(男性・8歳)
- ・ 一生を西東京市で、暮すための施策を推進して欲しい。(男性・36歳)
- ・ 財政問題は大きいですが、常にその面だけを優先させるのは、考えなおしてほしい。特に従来の障害者施設など、市の貴重な財産ですが売却のみを考えず、不足がちな障害者施設や福祉施設への再生を計画していただきたい。(男性・36歳)
- ・ 知的障害者への理解を市としてもっと深く進めて下さい。働く場所のこと、少なくとも年金・福祉手当だけでは生活はとても大変です。福祉作業所も人数が多くなるばかりなのに、全く広くならず運動する所もない等、本当の意味での理解はされていないと思います。(男性・47歳)

## ⑱ その他

- ・ 皆さんの声を生かし、協力し合える優しい街づくりを期待しています。障害は病気より事故によるものの方が多いです。明日は我が身が…と「自分だったら」で考えていていただきたいと思います。(女性・9歳)

## 【知的障害者】

- ・ 愛の手帳所持者対象のアンケートでしたが、その中にはひとりで動けない、意思も伝えられないといった重度重複の人もたくさんいます。もちろん働くこともできないし、地域活動への参加も難しいのが現実です。そういった人たち（家族も含めて）の将来への不安や要望なども、聞いていただけたらと思いました。（女性・30歳）
- ・ ちょうさしょはいろんなしつもんが多くあって、いみのわかんないもあつたけど書きました。これからもしょうがいしゃのなやみも聞いて下さい。（女性・60歳）
- ・ 個人的な意見を言えることは、なかなかないので、このアンケートは送ってきていただいて、良かったです。ありがとうございます。いろいろな意見を参考にさせていただいて、障害者にやさしい西東京市を目指して、ご尽力して下さることを願います。（男性・15歳）
- ・ 本アンケートが“本当に”活用されることを強く望みます。ただ傾向を集計するだけでなく、使える支援を提供して欲しいです。（男性・8歳）
- ・ 市の公共施設の合築や整備の問題が進んでいるようですが、市民の意見、特に自ら発信することが弱い障害者の思いや意見を丁寧に聞いていただきたい。（男性・36歳）
- ・ 障害の子どもの場合は子育て支援と連携をしてほしいです。障害福祉課での対応をしていますが、子育て支援でもできることはあるのではないかと思います。（男性・9歳）
- ・ 西東京市は、市内に小・中学部の特別支援学校がないため、障害児の保護者の意見を集約する場がありません。この年齢集団の親は、共働きをしている、又は母親が働きたくても障害児の世話をしてくれる人がいないため、できない（特に中学生）等、障害児の在存が親の就労に影響を与えていることが大きいです。ですので、練馬区のような、学校に、放課後児童デイサービスの車が迎えに来てくれ、帰りは自宅、もしくは自宅近くのバス停に送ってくれる福祉サービスの必要性を強く感じていながらも、私たちが現実に困っている事を訴え、要請していくことができませんでした。そこで、親の意見を集約する場を作ろうと、勉強会を結成することにしました。障害児本人だけでなく、きょうだい、親も安心して生活できるようにするための情報収集を行い、困っている事を解決していくために、行政に意見を伝えていきたいと思っています。そして、一方的にサービス向上を要請するだけでなく、親どうしの支えあいとして、「ペアレント・メンター」としての役割をボランティア協力できたら良いと思っています。行政主導のペアレント・メンター養成講座を開催していただき、勉強したうえで、同じ障害を持つ子の親の相談相手になれたらと思います。（男性・7歳）
- ・ 西武線の電車を利用する時、愛の手帳を提示して切符を買うのに時間がかかり過ぎ、乗り遅れてしまうのでJRのように券売機で買うシステムに統一して欲しいです。（女性・8歳）